別添資料

協議事項ア　令和８年度碧南市教育委員会点検・評価報告書について（庶務課）

令和８年度（令和７年度対象）

碧南市教育委員会　点検評価報告書

令和８年１１月

碧 南 市 教 育 委 員 会

目　　次

１　はじめに …… １

２　教育委員会点検・評価の流れ …… ２

３　教育委員会の体制 …… ２

４　教育委員会の活動状況 …… ３

５　各課等の主要事業の評価 …… ６

６　総合計画の施策に対する取り組み …… ４２

１　はじめに

教育委員会は、毎年、教育行政事務の管理及び執行状況について、学識経験者の知見の活用を図りつつ点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表することが地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和３１年法律第１６２号）に規定されています。

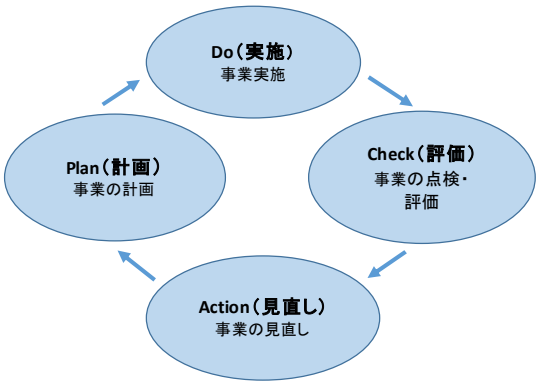
本市の教育委員会においても、効率的・効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たしていくため、毎年、点検及び評価を実施しています。

本報告書は、令和７年度に教育委員会が管理し、及び執行した事務につきまして、点検及び評価を行った結果を報告するものです。

報告書の構成につきましては、まず、１年間の教育委員会の活動内容をお知らせするために、教育委員会の定例会・臨時会の開催状況等を一覧表にまとめました。

次に、各課において特に継続的な進捗管理や推進が求められる事業を主要事業として取り上げ、個々に点検及び評価を行いました。各主要事業の取組みの内容から、その成果を明らかにし、今ある課題と外部評価者の評価を踏まえ、今後の取組みの方向を導き出し、次年度以降の事業実施に反映させていくように努めました（ＰＤＣＡサイクルの活用）。

ＰＤＣＡサイクルに基づいた事業実施



最後に、教育委員会が実施した全ての事業を、総合計画及び教育大綱の主要施策の方向ごとに分類し、取組みの内容を整理しました。

なお、点検及び評価につきましては、令和６年度から愛知教育大学教授の野平慎二氏に指導及び助言をいただいています。

点検評価の結果を踏まえ、今後も効率的・効果的な教育行政の推進を図り、本市の教育の一層の充実に努めてまいります。

（参考）

○ **地方教育行政の組織及び運営に関する法律**（昭和３１年法律第１６２号）

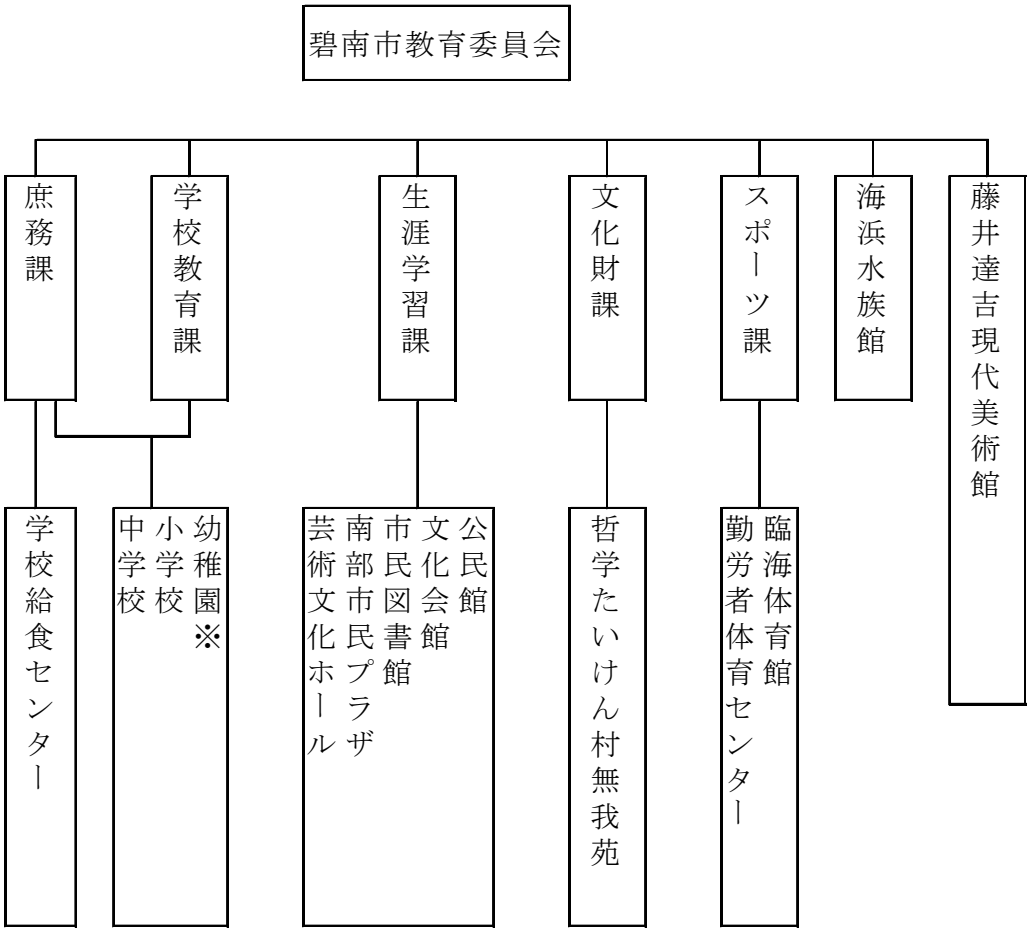
第２６条　教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

２　教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

２　教育委員会点検・評価の流れ

日　程	作業内容
令和７年度中	教育行政方針の策定、教育行政方針に基づく事業等の実施
６～７月	各課による点検・評価表に基づく評価 （主要施策成果報告書、「へきなんの教育」作成における事業の実施状況の点検）
７～８月	学識経験を有する者の知見の活用（外部評価） （外部評価者によるヒアリング）
９～１０月	評価結果を踏まえた各課による今後の取組み方向の検討
１０～１１月	教育委員会での検討 教育委員会点検・評価報告書の作成
１１月	教育委員会点検・評価報告書の公表等 （議会へ提出するとともにホームページにより広く市民へ公表）

３　教育委員会の体制（令和８年３月３１日現在）



※幼稚園事務は、こども課で補助執行を行っています。

４　教育委員会の活動状況

(1) 教育委員会のしくみ

教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、教育長及び４人の委員で構成し、教育行政に関する基本的な施策の決定と重要な案件の審議を行っています。

教育長は、当該地方公共団体の長の被選挙権を有する者で、人格が高潔で、教育行政に関し識見を有するもののうちから、委員は、当該地方公共団体の長の被選挙権を有する者で、人格が高潔で、教育、学術及び文化に関し識見を有するもののうちから、地方公共団体の長が議会の同意を得て任命することとなっています。

(2) 教育委員会の構成（令和８年３月３１日現在）

職　名	氏　名	任　期
教 育 長	小澤　徹	令和7年 4 月1日から令和9年3月 31 日まで
委　　員 （教育長職務代理）	大村　幸	令和4年 10 月1日から令和8年9月 30 日まで
委　　員	岡本明弘	令和7年 10 月1日から令和 11 年9月 30 日まで
委　　員	榊原京子	令和5年 10 月1日から令和9年9月 30 日まで
委　　員	深津茂樹	令和6年 10 月1日から令和 10 年9月 30 日まで

(3) 教育委員会の開催状況

令和７年度の開催状況は、定例会１２回、臨時会１回、合計１３回開催しました。定例会及び臨時会での審議内容は、協議事項２４件、報告事項３０件、合計５４件です。

ア　定例会の開催状況

開催日	議　題
４月定例会 ４月２２日	(1) 協議事項 碧南市教育支援委員会規程の一部改正について (2) 報告事項 ア　３月議会総括質疑内容及び回答について イ　まなびさぽーと資金支給審査に係る諮問について ウ　小中学校みどりの学校の実施について エ　令和７年度「県民の日学校ホリデー」の実施について オ　教育相談事業報告について
５月定例会 ５月２７日	報告事項 ア　令和７年度６月補正予算（案）について イ　令和７年度教育委員会学校教育課・教育委員学校訪問について
６月定例会 ６月２６日	(1) 協議事項 まなびさぽーと高校生の決定について (2) 報告事項 ア　碧南市教育委員会附属機関の委員について イ　令和７年度小中学校の研究主題について
７月定例会	(1) 協議事項

７月２５日	ア　令和８年度使用小学校及び中学校用教科用図書採択について イ　愛知県教科用図書採択地区の適正規模化に係る意向確認について (2) 報告事項 ア　６月議会一般質問内容及び回答について イ　要保護・準要保護児童生徒の認定について
８月定例会 ８月２８日	(1) 協議事項 碧南市立学校教育規則の一部改正について (2) 報告事項 ア　令和６年度主要施策成果報告書について イ　令和７年度９月補正予算（案）について ウ　就学時健康診断について エ　令和６年度碧南市芸術文化ホール指定管理者実績報告について オ　記念事業「二十歳を祝う会」の開催について
９月定例会 ９月２５日	協議事項 ア　令和８年度学校教育予算に関する要望書について イ　令和７年度教職員定期人事異動方針について
１０月定例会 １０月２７日	(1) 協議事項 ア　令和７年度碧南市教育委員会点検・評価報告書について イ　まなびさぽーと中学生の決定について (2) 報告事項 ア　９月議会一般質問内容及び回答について
１１月定例会 １１月２７日	(1) 協議事項 ア　使用料及び手数料の見直しに伴う関係条例の整備に関する条例について イ　碧南市特別支援学校給食費補助金交付規程の制定について ウ　碧南市民図書館の設置及び管理に関する条例の一部改正について (2) 報告事項 ア　令和７年度１２月補正予算（案）について イ　令和８年度学校行事の日程（案）について ウ　無我苑の呈茶料金の改定について エ　損害賠償に係る専決処分について
１２月定例会 １２月２５日	報告事項 ア　令和７年度教育委員会事務局学校訪問を終えて イ　令和８年度「県民の日学校ホリデー」の実施について ウ　財政非常事態宣言に伴い見直しの方針が決定した事業等の情報共有について
１月定例会 １月２７日	(1) 協議事項 令和８年度教育行政方針について (2) 報告事項 ア　１２月議会一般質問内容及び回答について

	イ　「卒業生に贈る言葉」について ウ　新入学児童生徒数の状況について
２月定例会 ２月２６日	(1) 協議事項 ア　碧南市教育委員会事務局等処務規則の一部改正について イ　碧南市藤井達吉現代美術館の管理に関する規則の一部改正について ウ　碧南市教育委員会職員服務規程の一部改正について エ　令和８年度学校教育の指導方針並びに学校経営の努力目標について オ　業務量管理・健康確保措置実施計画の策定について (2) 報告事項 ア　令和８年度策定碧南市実施計画について イ　令和８年度教育委員会各課主要事業について ウ　令和７年度３月補正予算（案）について
３月定例会 ３月１９日	協議事項 ア　一般財団法人ヘキナンシティカンパニー補助金交付規程の制定について イ　碧南市医療的ケア児学校等訪問看護事業実施規程の制定について ウ　碧南市私立高等学校授業料等補助金交付規程の廃止について エ　碧南市部活動地域移行検討委員会設置規程の一部改正について オ　令和８年度職員の人事異動について

イ　臨時会の開催状況

開催日	議　題
令和８年第１回臨時会 ３月６日	協議事項 令和８年度教員人事異動について

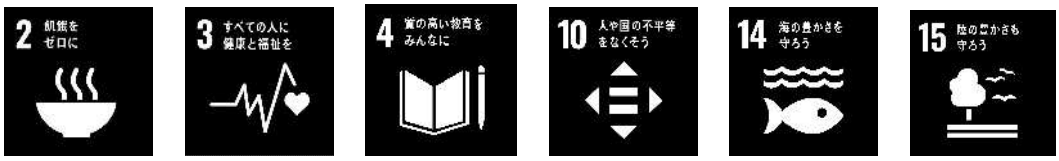
(4) 教育委員会の活動状況（教育委員会議は除く）

年月日	内　容	場　所
令和７年８月２８日 令和８年１月２７日 令和８年３月１９日	総合教育会議 （第１回～第３回）	市役所
令和７年６月１９日 令和７年７月７日 令和７年９月１１日	学校訪問	中央小学校 新川小学校 新川中学校
令和７年９月１９日	研究発表会	東中学校
令和７年１０月２７日	市長との予算協議	市役所

５　各課等の主要事業の評価

(1) 主要事業一覧（総合計画における位置づけの順に掲載）

No.	種別	評　　価　　事　　業	課（施設）名
1	継続	日本語教育支援充実事業	学校教育課
2	継続	学校給食への地場産物の活用の推進	庶務課（学校給食センター）
3	継続	ＨＥＸＰＯ　ＳＴＡＦＦ活動事業	生涯学習課
4	継続	碧南緑地ビーチスポーツ推進事業	スポーツ課
5	継続	無我苑自主事業	生涯学習課（無我苑）
6	継続	文化財の啓発事業	藤井達吉現代美術館
7	継続	企画展開催事業	藤井達吉現代美術館
8	継続	教育普及事業	藤井達吉現代美術館
9	継続	水族館活動実施事業	海浜水族館
10	継続	図書館利用拡大のための事業	生涯学習課（市民図書館）



主要事業名	１．日本語教育支援充実事業	所属課	学校教育課

１　第６次総合計画での位置づけ

第７章　基本施策　施設分野２　基本施策７　学校教育 ②支援の必要な児童生徒への支援の充実

２　事業の目的・理由【Ｐ】

目的
来日直後の日本語教育が必要な児童生徒に対して、サバイバル日本語の学習を通じて、日本の学校生活や社会生活に関する最低限のルールを理解し、最低限の意思疎通が可能となるよう日本語の初期指導を行う。
評価対象とした理由
日本語の初期指導を必要とする児童生徒が年々増加している状況から、平成２８年度から初期指導教室を開設している。今後の事業推進にあたり、より良い方法を検討していきたい。

３　事業費

6 年度決算額	7 年度決算額	8 年度予算額
14,488 千円	14,488 千円	17,325 千円

４　取り組みの内容【Ｄ】

(1) 日本語初期指導教室の実施概要

来日直後等の日本語初期指導を必要とする児童生徒に対して、学校外において日本語初期指導教室を開設し、就学直後３ヶ月程度、在籍校の１時限目から給食の時間前までの間、日本の生活習慣や学校生活への適応を図るための日本語初期指導を実施した。給食の時間以後は、学校生活にも慣れるよう在籍校において指導を行った。

日本語初期指導教室と学校は、児童生徒の学習状況等について連絡調整をし、当該児童生徒が 学校生活に円滑に順応できるための連携を行った。

(2) 日本語初期指導教室の開設状況

ア　受入れ人数

令和７年度の支援受け入れは、３９人（６年度５５人）であった。その内訳は小学生３６人、中学生３人であり、計９校（６年度１１校）の小中学校からの児童生徒を受け入れた。令和７年度は、以前日本語初期指導を受けた子どもの弟妹やいとこの入室が７人と多かった。今では兄が大学生になっている子もおり、保護者からの入室希望が強く、長年の実績の積み重ねで信頼を得られた結果であると受け止めている。

国籍別では、ベトナム１７人、ブラジル１２人、フィリピン５人、インドネシア１人、ペルー１人、ナイジェリア２人、中国１人であった。

(ｱ) 1学期 7校(棚尾小学校、大浜小学校、中央小学校、西端小学校、南中学校、中央中学校、西端中学校)12人(小学生9人、中学生3人)

(ｲ) ２学期 2校(新川小学校、日進小学校)16人 (小学生16人、中学生0人)

(ｳ) ３学期 3校(中央小学校、大浜小学校、西端小学校)11 人 (小学生11人、中学生0人)

イ　開設場所 １学期 中央・西端児童クラブ、２学期 新川・日進児童クラブ、

３学期 中央・大浜児童クラブ

(ｱ) 保護者の送迎が見込めない場合等を考慮し、支援対象となる児童生徒の住所地に近い児童クラブでの開設を基本として、適宜決定した。

(ｲ) 外国籍児童生徒の増加に伴い、各学期２教室の開催とした。

ウ　開設時間　１時限目から給食の時間前まで

エ　児童生徒１人あたりの指導期間　４時間／日×６０日（３ヶ月程度、上限２４０時間）

オ　指導者　ＮＰＯ法人プラス・エデュケート（委託）

カ　指導体制　日本語教育支援員２名が中心となり、支援員補助者と指導

キ　支援員活動時間

日本語教育支援員　週５日、１日５時間程度。

支援員補助者　週５日、１日４時間程度。

(3) 日本語初期指導教室指導員の研修　日本語教育支援員が経験の乏しい支援員補助者と一緒に児童生徒への指導を行う中で、日本語初期指導についての指導・研修を行い、支援員補助者のスキルアップを図った。

５　達成度を測る指標

指　標	初期指導教室受入児童生徒数				
指標の説明	目標値は１学期時点の初期指導教室受入可能児童生徒数。 実績値は１学期の教室に実際に通った児童生徒数。				
年　度	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度	12 年度
目標値	１８人	２５人	２５人	２５人	２５人
実績値	１１人	２２人	１２人	－	－

指　標	ＤＬＡ語彙テスト平均正答率				
指標の説明	目標値は受け入れ児童生徒が最低限必要な日本語の習熟度を図るＤＬＡ語彙テスト（５５点満点）の正答率 実績値は教室終了時に受けたＤＬＡ語彙テストの平均正答率（正答率７０％に達成した児童・生徒数の割合）				
年　度	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度	12 年度
目標値	７０％	７０％	８０％	８０％	８０％
実績値	７５％	７８％	６４％	－	

６　取り組みの成果【Ｃ】

(1)全体

初期指導教室に通う児童生徒は、来日直後で日本語が分からないだけでなく、日本の生活に慣れず、学校生活の基本的なことも分からず孤立しがちである。また、家庭の事情から欠席数が多くなる子どもも少なくない。そうした子どもたちにとって初期指導教室は、意思疎通に必要な最低限度の日本語を学ぶ場所というだけでなく、同じ母語や境遇の仲間として、意欲的に互いに学びあい精神的に落ち着ける場所となっている。日本の学校生活に適応するための第一歩として、とても重要な場所である。

令和７年度に受け入れた子どもについては、ベトナム国籍の子は来日間もない子が多く、南米の子には、日本生まれや就学前から日本で過ごしてきた子が多くいた。また、７年度も、一時帰国をする子が４人いた（ベトナム２人、中国１人、フィリピン１人）。そのため、一時帰国中も宿題を出し、帰国後個別指導するなど、学習に遅れがでないように工夫をした。

年々その傾向が高まっている（６年度２人、５年度０人）。

どの学期も初期の日本語を使いこなせるように、自分のものになるまで練習をしたことで、自信を持たせることができ、担任からも、表情がよくなった、自分から話しかけに来てくれるようになったという感想が聞かれた。

令和７年度も、学んだ日本語を使う機会として、１学期と２学期に新聞切り抜き作品の作成を行った。切り抜き作品は、在籍学級で発表することにしており、そのために「いっぽ教室」で発表の練習を行うことで、発表の仕方を身につけることができ、日本の友だちからの質問に答えることができた。 また、通級時間数の少なかった開催場所の子どもは、新聞に親しむ活動を行った。覚えたばかりの片仮名を紙面から探したり、気に入った記事を見つけてお手紙を作ったりした。文字を見るのも嫌がっていた子が、きれいな新聞の記事を見て、どんどん片仮名を見つけることができた。

そして、７年度も「新聞切り抜き作品コンクール、チャレンジ部門」に１４人が応募し、１４人全員が奨励賞をいただいた。どの子も興味を持って取り組むことができ、選んだ記事を読んで伝えようとする姿勢があり、相手に通じたことや作品で自分の考えを表現できたことを喜んでいることがよく伝わってきて、成長を感じられた。

７年度は低学年が多かっただけでなく、ベトナムの子が多く、日本語よりもベトナム語になりやすかった。日本語で表現できるように、休み時間も日本人の私たちと個別に日本語で話すように過ごした。

(2)　教室内では日本語が共通言語であることを意識させること

低学年の子たちは、自分が何語で話しているかをあまり意識できておらず、言いやすい言葉が第一に出てきていた。そのため、対策として、休み時間であっても、私たち教師が近くにいて、日本語での言い方をその場ですぐに示すことを続け、母語が違っても、日本語で言えばお互い通じるということが徐々に分かっていった。子どもの母語を訂正するのではなく、こう言ってというように表現を示すことで日本語なら通じることを分からせた。また、ベトナムの子同士でけんかしても、教師に日本語で一生懸命説明をするようになり、トラブルをそのままにしない環境が整い、日本語を使って生活できるようになってきた。

(3) 宿題を提出する習慣をつけさせること

低学年が多く、宿題をする習慣が身についていなかった。宿題を学校において帰ってしまう子が多く、毎日、次の日に持ってくるものを確認し、習慣化するまで、学校の先生にも宿題を持ち帰るように声掛けをお願いした。さらに、宿題をしてきたら、ご褒美シールを渡し、シートに順に貼っていくことで、意識ができ、宿題が毎日あること、次の日に持ってくることが分かって、習慣化できた。

(4)語彙の拡充

今年度は、「聞く・話す・読む・書く」どの技能もバランスよく伸びていった。一方で、語彙が少なく、「木」のような一般的な語彙は分かっても、使用頻度が低い「枝」などの語彙がなかなか獲得できなかった。練習した日は言えても、次の日には忘れてしまう子が多かった。イメージさせることを意識して、体を動かしたり、絵に描いたりして覚えるようにした。ＤＬＡの語彙テストの結果をみると、定着が図られたことがわかる。具体的には、入室時語彙は少しわかっている子が、使用頻度の低い語彙も覚えることができた。

７　残されている課題【Ｃ】

(1)　【開設場所・環境の課題】小学校に隣接する児童クラブを会場としていることは、安全面ではよいが、開催地から離れた地域の学校に在籍し、保護者による送迎ができない場合は、より多くの地域をカバーできるよう開催場所を配慮しており、開設教室数を６教室とした。しかし、それでも親の送迎ができず通うことができない児童生徒がある。児童生徒の家族環境が多様であることもその一因である。また、児童クラブを利用していることで、床に座って学習していることにより、慣れない姿勢で集中力が続かない傾向があるため、令和８年度からは実施場所を学校内に変更することとした。

(2)　【指導、支援方法の課題】平成２８年度事業開始から多くの子どもたちを見てきた中で、問題は言語だけではないということが見えてきた。１か月以上帰国するなど文化の違い、国際結婚での複雑な家庭事情や親の離婚など、家庭が不安定で学習に集中できない子どもが増えてきている印象が強く、子どもの心のケアの必要性が高まっていると感じる。また、発達上で特別な支援が必要な子どもも増えてきており、指導方法を検討していく必要がある。

８　外部評価者の評価【Ｃ】

さまざまな背景をもつ外国籍の児童に対する日本語指導は、単に当該児童の日本語能力の向上に資するのみならず、保護者や地域社会にとっても有意義な事業です。令和７年度も、学校や保護者、日本語指導担当者と密接に連携を図りながら事業を実施されたことがうかがえます。生活と結びついた日本語指導を展開し、児童や保護者から好評を得ておられる点は特に評価できます。引き続き、事業の充実に努めていただくよう望みます。

９　評価結果をふまえた今後の取り組み方向【Ａ】

令和７年度までは、児童クラブの空き時間に施設を利用し、日本語指導教室を設置していましたが、座卓に正座という、外国籍の児童・生徒にとっては、学習に集中しづらい環境設定であったため、令和８年度からは、より学びやすい環境を目指して、実施場所を学校内の教室へと変更しました。また、学ぶ期間が他学期より短かった３学期も、１・２学期同様に学ぶ期間を保障し、基礎的な日本語習得を目的とした初期指導だけでなく、より発展的に学ぶことができる継続指導教室の設置など、段階に応じた指導を設定するため委託内容を見直しました。

＊(Ｐ)lan（計画）→(Ｄ)o（実施）→(Ｃ)heck（点検・評価）→(Ａ)ction（見直し・処置・改善）

主要事業名	２．学校給食への地場産物の活用の推進	所属課	庶務課 （学校給食センター）

１　第６次総合計画での位置づけ

第７章　基本施策　施策分野２　基本施策７　学校教育 ⑤安全な給食の提供及び食育の推進

２　事業の目的・理由【Ｐ】

目的
地場産物を使用した給食実施に努め、学校給食を通して、地域の自然や文化、産業等に関する理解を深めるとともに、生産者の努力や食に関する感謝の気持ちを育む。
評価対象とした理由
第４次碧南市食育推進計画においても地産地消の推進が位置付けられており、着実な進展が求められている。また、教育の範囲に限らず、地元経済の振興や環境負荷の低減などにも関わる課題であり、関係機関との連携を図りながら取り組んでいく必要があるため。

３　事業費

６年度決算額	７年度決算額	８年度予算額
372,430 千円	401,307 千円	426,013 千円
１０款６項６目　５－３（賄材料調達事業） 賄材料調達事業の支出内容はごはん、牛乳、おかず等、給食食材の購入費。		

４　取り組みの内容【Ｄ】

賄材料調達事業の中で、地場産物の活用について、下記のソフト事業に取り組んだ。

(1) 地場産物を使用した給食の実施

ア　野菜等青果物は、積極的に碧南産・県内産を使用した。

イ　地元産食材を使用した献立を取り入れた。

(2) 食育の推進

ア　「食育だより」を年間６回発行し、児童生徒および保護者に配布した。地元産食材を使用した献立や学校給食における地産地消の取組、あいちの伝統野菜、朝食の重要性、クッキングコンテストなどを紹介するとともに、給食を通じて食育について学ぶ機会を提供した。

　また、引き続きホームページに地場産物を活用した給食レシピ集を紹介した。

イ　「愛知の新たまねぎの日」（４月１１日）に、碧南玉ねぎ部会から寄贈された新たまねぎを給食に使用し、献立表等で紹介した。

ウ　「よいきゅうりの日」（４月１８日）に、胡瓜生産部会碧南支部から寄贈されたきゅうり（三河みどり）を給食に使用し、献立表等で紹介した。

エ　「へきなん赤しその日」（６月１３日）に、碧南しょうが・しそ部会から寄贈された赤しそを給食に使用し、献立表等で紹介した。

オ　「碧南にんじんの日」（１月２３日）に、碧南にんじん部会から寄贈されたにんじん（へきなん美人）を給食に使用し、献立表等で紹介した。

カ　小学校５・６年生を対象に碧南産の食材を使用した朝ごはんのクッキングコンテストを実施し、優秀作品を「食育だより」に掲載した。
キ　栄養教諭が学校と協議し、教科及び特別活動で食育指導を実施した。

５　達成度を測る指標

指　標		第４次碧南市食育推進計画に記載の学校給食における使用した農産物(野菜)の地元産の種類及び割合（碧南産・県内産）									
指標の説明		学校給食に使用した農産物（野菜）に対する碧南産・県内産種類の数と割合。令和７年度目標として、碧南産（種類１９種類以上、割合３５．０％以上）、県内産（種類３４種類以上、割合６３．０％以上）を目標としている。									
年　度		4年度		5年度		6年度		7年度		8年度	
生産別		市内	県内	市内	県内	市内	県内	市内	県内	市内	県内
種類	目標値	19	34	19	34	19	34	19	34	－	－
	実績値	21	33	15	31	15	29	18	27	－	－
割合	目標値	35.0	63.0	35.0	63.0	35.0	63.0	35.0	63.0	－	－
	実績値	38.9	61.1	27.8	57.4	27.8	53.7	33.3	50	－	－

※７年度までの目標設定をしていた令和３年度末策定の第４次碧南市食育推進計画が満了を迎えることから、令和８年度において新たな第５次碧南市食育推進計画の策定を行う。

６　取り組みの成果【C】

(1) 地場産物を使用した給食の実施
ア　給食に使用した農産物の種類は、県内産が目標値３４種類のところ２７種類、市内産が目標値１９種類のところ１８種類であり、割合は、県内産が目標値６３．０％のところ５０％、市内産が目標値３５．０％のところ３３．３％であり、令和３年度から令和４年度にかけては高水準を達成できたが、令和５年度及び令和６年度は目標値に大きく届かない状況となったため、令和７年度は碧南産農作物を積極的に使用し目標値に近づけることができた。
イ　農業水産課と連携してきた碧南産食材、にんじん、たまねぎ、きゅうりなどは継続して使用することが出来たが、もともと出荷量が少ない地場農産物は、産地を指定することで積極的に使用することができた。
ウ　地元の農産物として、新玉ねぎを使用した「碧南たまねぎのすまし汁」、きゅうり（三河みどり）を使用した「三河みどりと海藻のサラダ」、赤しそを使用した「さわらの赤しそ甘酢あんかけ」をはじめとする碧南の農産物を、年間を通じて積極的に使用した。
　また、地場産物を使用した新メニューとして、今年度は「新たまねぎの赤しそソテー」、「じゃがいもの赤しそ唐揚げ」、「かりもりの和風ピリ辛炒め」、「葉生姜としらすの和風スパゲッティ」等を献立に取り入れた。
エ　学校給食週間（１月２３日から１月２９日）では、１月２３日の碧南にんじんの日に碧南にんじん部会より提供された「へきなん美人」を使い、『へきなん美人のツナサラダ』、『鶏団子とへきなん美人のすまし汁』を提供した。
　また、碧南市で醸造された「白しょうゆ」と愛知県産のにんじん（すりおろし）を使用

した『豚肉のみりんにんじんソース』も提供し、すべての料理に「にんじん」を使用した「にんじん献立」を提供した。

オ　食育月間（６月）・食育の日（毎月１９日）では、６月１９日に「愛知を食べる学校給食の日」として、県内の旬の食材や碧南産食材を紹介する献立（「あいちぶたのサマーソース」「チンゲンサイのぴり辛サラダ」「碧南新玉ねぎのみそ汁」「蒲郡ミカンゼリー」）を提供した。

また、１１月２０日に「秋を感じる和食の日」として、碧南市で醸造された「有機白しょうゆ」（有機農業で栽培した小麦、大豆で作った白しょうゆ）を「紅葉のすまし汁」の味付けに使用し、「鰆の塩唐揚げ」「さつまいものきんぴら」とともに、秋が旬の食材や地場産物を使用し、和食の良さや季節を感じることのできる献立を提供した。

(2) 食育の推進

ア　「食育だより」や毎月の献立表を活用した情報発信により、地元産食材やあいちの伝統野菜、和食文化について児童生徒の関心や理解を高めることができた。

イ　生産者から寄贈された野菜（新玉ねぎ、きゅうり、赤しそ、にんじん）を使用した献立を通して、地元野菜のすばらしさを認識させ、給食の時間には栽培や収穫風景をこども達に動画で紹介するなど、児童生徒に生産者を身近に感じさせることができた。

ウ　クッキングコンテストには、小学校７校から７９３点（参加率６０％）の応募があり、碧南産食材の品目や料理の理解につながった。また、優秀作品を実際の献立に取り入れた。

７　残されている課題【C】

食育だよりの発行、クッキングコンテスト、ふれあい給食等を通じて年間を通して食育の推進を行った。寄贈を受けた野菜等を季節の献立に取り入れ、献立にいろどりを添えるとともに、子どもたちに地産地消を考える場を提供することが出来た。

達成度を測る指標としている碧南産、県内産の農産物（野菜）の使用割合について、積極的に使用したことで、令和７年度はわずかではあるが碧南産の使用割合が目標値に近づいた。食材費が高騰している状況ではあるが、少しでも目標に近づけられるよう引き続き積極的に使用していきたい。

８　外部評価者の評価【C】

地場産物を使用した給食の実施、ならびに食育の推進という２つの柱を中心に、堅実に事業が推進されたことがうかがえます。食材費の高騰にもかかわらず市内産の農産物を積極的に使用し目標値に近づけることができた点、また食育の推進について、従来の栄養教諭による訪問指導に加え、調理事業者と連携した活動を視野に入れ、活動の充実を図っておられる点は高く評価できます。引き続き、事業の充実に努めていただくよう望みます。

９　評価結果をふまえた今後の取り組み方向【Ａ】

令和８年度は、食材費の更なる高騰が続いているところではあるが、地域の食文化・産業への理解や生産者への感謝の気持ちを育むためにも、可能な限り地場産物を使用できるよう努めるとともに、食育の充実を図れるよう工夫したい。

また、和食の良さや季節を感じることのできる献立の提供、「食育だより」や「献立表」の充実、クッキングコンテストの開催などを改善・継続して行うとともに、従来の栄養教諭による訪問指導に加え、調理事業者との連携した活動を視野に入れ活動の充実を図っていきたい。

＊(Ｐ)lan（計画）→(Ｄ)o（実施）→(Ｃ)heck（点検・評価）→(Ａ)ction（見直し・処置善）

主要事業名	３．ＨＥＸＰＯ　ＳＴＡＦＦ活動事業	所属課	生涯学習課

１　第６次総合計画での位置づけ

第７章　基本施策　施策分野２　基本施策８　生涯学習・スポーツ　②生涯学習機会の拡充

２　事業の目的・理由【Ｐ】

目的
本事業は、市内の青年の連帯と青年活動の活性化を図ることを目的としている。昭和６０年国際青少年年に取り組むために組織された実行委員が、その後ＨＥＸＰＯ　ＳＴＡＦＦを組織し、各種イベントを企画し青年層の活動の活発化と友好の輪を広げている。
評価対象とした理由
年々スタッフの確保に苦慮しており、定例会の出席も少ない状況が続いていることから、メンバーの募集方法や定例会の日程など各種見直しを行っている。更なる効果的な運営を行うため点検評価を行う。

３　事業費

6 年度決算額	7 年度決算額	8 年度予算額
(1)　500 千円 (2)　 50 千円	(1)　500 千円 (2)　 50 千円	(1)　500 千円 (2)　 50 千円

４　取り組みの内容【Ｄ】

(1) ＨＥＸＰＯ　ＳＴＡＦＦ活動事業
ア　毎月１回定例会を開催
イ　マリンスポーツフェスタに参加
ウ　元気ッスへきなんに参加
エ　水遊び（明石公園）
オ　クリンピーときれいな街づくりに参加
カ　子どものつどいに参加
キ　二十歳を祝う会に協力
ク　平谷村の雪遊び
ケ　ヘキスポスカイランタンフェス

(2) プレイメイト活動事業
学校完全週５日制となった平成１４年度より、安心安全な子どもの居場所を提供するため、青年団体であるＨＥＸＰＯ　ＳＴＡＦＦが小学生を対象にレクリエーションや工作、お菓子作りなど、様々な生活体験を提供する教室を開催している。前期・後期で全３回ずつ開催。

５　達成度を測る指標

指　標	ＨＥＸＰＯ　ＳＴＡＦＦ　会員数				
指標の説明	ＨＥＸＰＯ　ＳＴＡＦＦの人数（高校生の準会員を含む）				
年　度	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度	12 年度
目標値	70 人	70 人	70 人	70 人	70 人
実績値	38 人	44 人	52 人	―	―

６　取り組みの成果【Ｃ】

(1) ＨＥＸＰＯ　ＳＴＡＦＦ活動事業

令和７年度はおおむね計画通りに事業を実施することができた。

・水遊び(あおいパーク)　参加スタッフ　約20名
・雪遊び(明石公園)　参加スタッフ　約20名
・ランタンフェス　参加スタッフ　約 20 名
・各種事業への参加、協力
　「春の一斉清掃」　参加スタッフ　約10名
　「クリンピーときれいな街づくり事業」　参加スタッフ　約10名
　「元気ッス！へきなん　総踊り」　参加スタッフ　約20名
　「二十歳を祝う会運営補助」　参加スタッフ　約20名

(2) プレイメイト活動事業

・「みんなでレクリエーションで遊ぼう」　参加者　20名
・「お菓子作り①」　参加者　20名
・「切って貼って描いて楽しい工作①」　参加者　17名
・「お兄さん、お姉さんと体を動かそう！」　参加者　13名
・「切って貼って描いて楽しい工作②」　参加者　16名
・「お菓子作り②」　参加者　19名

７　残されている課題【Ｃ】

昨年度は『ヘキスポスカイランタンフェス』の開催や広報へきなん、碧南市公式 YouTube チャンネル、ヘキスポ Instagram を通じた情報発信により、団体の知名度向上とイベント運営の実績において大きな成果を上げた。しかし、イベントの成功が若年層スタッフの確保という本来の目的達成に直結しておらず、今後の広報戦略の再考が必要である。

また、団体の認知度向上に伴い外部からの協力依頼が急増している。これは社会的な評価が高まった証である一方、現状の運営体制ではスタッフの負担が限界に近く、活動の持続可能性を損なう恐れがある。

８　外部評価者の評価【Ｃ】

HEXPO STAFF の活動が維持、継続されていること自体、碧南市の大きな特徴であり成果であると思われます。スタッフの人数が増えている点、ならびに外部からの協力依頼が増えている点は、この事業の社会的認知の広まりの証左と考えられ、高く評価できます。事業の運営や継続の面で苦慮されていることがうかがえますが、小中学生への広報活動、スタッフ間での運営のノウハウの継承、スタッフになることのメリットの拡大などの取り組みが実を結ぶことを願っています。引き続き、事業の継続と発展に努めていただくよう望みます。

９　評価結果をふまえた今後の取り組み方向【Ａ】

いただいたご意見をふまえ、今後は「若いスタッフがもっと増える仕組み」と「無理なく続けられる体制づくり」の両立を目指してまいります。 具体的には、小中学生のうちからボランティア活動に親しんでもらう機会を用意し、ボランティア活動をすることの楽しさややりがいをしっかりと伝えていきます。また、これまでの運営ノウハウを次世代が引き継げるようマニュアルを整備していきます。さらに、急増する外部からの協力依頼に対しては、業務の精選や連携の仕組み化を図り、スタッフの負担軽減に努めます。

＊（Ｐ）lan（計画）→（Ｄ）o（実施）→（Ｃ）heck（点検・評価）→（Ａ）ction（見直し・処置・改善）

主要事業名	４．碧南緑地ビーチスポーツ推進事業	所属課	スポーツ課

１　第６次総合計画での位置づけ

第７章　施策分野２　基本施策８　生涯学習・スポーツ　④スポーツに触れる機会の充実

２　事業の目的・理由【Ｐ】

目的
本市特有である碧南緑地ビーチコートを活用しながら、ビーチスポーツの魅力発信に取り組むことを目的とする。
評価対象とした理由
令和８年に愛知・名古屋を会場としてアジア競技大会が開催される。碧南緑地ビーチコートが競技会場予定地となっており、大会実施へ向け、機運醸成のための取り組みを進めているため。

３　事業費

６年度決算額	７年度決算額	８年度予算額
(1) ア　300 千円 イ　2,276 千円 (2)　3,703 千円	(1) ア　300 千円 イ　3,214 千円 (2)　2,839 千円	(1) ア　300 千円 イ　3,323 千円 (2)　2,964 千円

４　取り組みの内容【Ｄ】

(1) ビーチバレーボール

ア　ビーチバレーボール全国大会の誘致・開催

(一社)日本ビーチバレーボール連盟が主催する「ＪＢＶシリーズ２０２５碧南大会丸八証券カップ」を令和８年度に開催されるアジア競技大会のテスト大会を兼ねて開催し、国内トップ選手が参加したほか、海外からも４チームが参戦した。大会に併せて、市内飲食店によるキッチンカーやテント販売を行うマルシェを開催し、碧南市の魅力の発信も行った。また、海外選手は市内のホテルに宿泊してもらい、職員により試合会場等へのエスコートを行ったほか、市内の寺院に参拝し絵馬を書くなど日本文化に触れる機会を作った。

イ　全国ビーチバレーボール中学２人制全国大会（ＨＥＫＩＮＡＮマンモスカップ）の開催

中学生による２人制ビーチバレーの全国大会を開催。令和７年度で５回目の開催。これまで他自治体において４人制の中学生大会は存在したものの、２人制の全国大会は碧南市が先駆けて開催したものである。大会に併せて、市内飲食店によるキッチンカーやテント販売を行うマルシェを開催し、碧南市の魅力の発信も行った。

(2) ビーチサッカー

ア　ビーチサッカー全国選抜大会ＨＥＫＩＮＡＮカップの開催

全国各地域から選抜された一般のビーチサッカーの男女各チームによる全国大会を開催した。（一財）日本ビーチサッカー連盟が共催し、日本代表選手を有するチームも本大会に参加するなど、ハイレベルな試合が展開された。また、全国から出場チームを募り、小学生（Ｕ１２）の大会を新たに開催した。一般の部もＵ１２も、試合の合間にビーチサッカーのトップ選手が小学生に直接指導を行うビーチサッカークリニックを開催した。

5　達成度を測る指標

指　標	全国規模のスポーツ大会、イベントの誘致・開催件数と動員人数				
指標の説明	第２期及び第３期碧南市まち・ひと・しごと創生総合戦略の重要業績評価指標（KPI）を用いているため、ビーチスポーツ以外の競技も含んでいる。				
年　度	5 年度	6 年度	7 年度	８年度	12 年度
目標値	6 件・3,950 人	7 件・2,000 人	7 件・2,000 人	7 件・2,000 人	7 件・2,000 人
実績値	5 件・1,484 人	6 件・2,069 人	9 件・9,828 人		―

６　取り組みの成果【Ｃ】

(1) ビーチバレーボール

ア　ＪＢＶシリーズ２０２５碧南大会丸八証券カップ（令和７年１０月３日～５日）

例年は、主に将来プロを目指す選手や社会人選手、大学生の出場が中心となるツアー大会「ジャパンツアーサテライト碧南大会」を誘致・開催しているが、アジア競技大会開催１年間というタイミングでそのテスト大会を兼ね、国内トップ選手・海外選手が参戦する大会を開催した。開催に向けて、日本バレーボール協会はじめ関係団体とのミーティングを重ねる中で互いの連携を深めた。また、毎年ビーチスポーツ事業に協賛いただいている企業より、例年より多くの協賛金をいただき、強固な関係を築くことができた。さらには地元商店街の協賛や飲食ブースの出店により碧南市をＰＲしていただき、こうした取り組みから官・民・地域が一体となって大会を盛り上げることができた。本大会は３日間の日程であったが、市民等約2,000人（選手スタッフ含む）の方が来場し、多くの方に高いレベルの試合を楽しんでいただいた。また、地元小学生が校外学習で試合観戦に訪れ、ビーチバレーボールに触れる機会となった。

イ　全国ビーチバレーボール中学２人制全国大会（令和７年８月２３日～２４日）

各都道府県代表として予選を勝ち上がった、あるいは所管の都道府県ビーチバレーボール連盟から推薦された代表チームによる中学生２人制のビーチバレーボール全国大会を碧南緑地ビーチコートで開催した。

参加チームは、年々増加しており、男子４５チーム、女子４８チームが参加した（過去最高）。初日には碧南緑地ビーチコートにおいて一次予選及び二次予選を行い、２日目には碧南緑地ビーチコート及びトヨタ自動車衣浦工場のビーチバレーコートにおいて、予選結果別にクラス分けされた決勝トーナメントが行われた。高校生以上のカテゴリーの大会では２人制が原則であることから、中学生期から将来を見据えた試合ができる場として、全国でも貴重な大会として開催できた。また、大会に併せて、碧南市の魅力を発信するとともに大会を盛り上げるため、協賛団体のＰＲブースを設置するとともに市内飲食店によるキッチンカーやテント販売を行うマルシェを開催、１３店舗が軒を並べた。

(2) ビーチサッカー

ア　ビーチサッカー全国選抜大会ＨＥＫＩＮＡＮカップ（令和７年１１月１５日～１６日）

全国から選抜された一般男子の部４チーム、女子の部３チームによるビーチサッカーの全国選抜大会を開催した。初日の試合終了後には、市内サッカーチームに所属する小学生向けのビーチサッカークリニックを行い、１００名程の小学生が参加した。トップ選手による技術指導や実技講習が行われ、こども達のスキルアップ及びビーチコートに親しんでもらえる良い機会として有意義な時間がとられた。また、令和６年度から小学生（Ｕ－１２）の大会を新たに開催した（Ｕ－１２フェスティバル）。全国から出場チームを募り、令和７年度は地元のサッカー少年団を含め合計４チームが出場した。

７　残されている課題【Ｃ】

(1) 競技振興と地域振興の好循環

スポーツ庁の定める第３期スポーツ基本計画では、スポーツの持つ役割の一つとして、地方創生やまちづくりといったことが記されており、競技振興と地域振興の好循環の実現が求められている。こうした考えを受け、令和６年度に改定した第２次碧南市スポーツ推進計画において、基本方針に「つながる」を加え、様々な団体や人々がつながり、全国レベルの大会の誘致・開催がまちの賑わい資源となるような取り組みを行うこととしている。

実際には、試合会場に地元飲食店にブース出店してもらい、地元のＰＲの場に繋げる等の取り組みを積極的に行っており、今後の定着・発展につなげたい。また、全国から人を招くにあたり、本市では宿泊や交通の不便さについて意見が出ることがあり、地元のホテルと連携し、スポーツツーリズム（スポーツの観戦・参加を目的とした旅行・観光）の推進に工夫を凝らす必要があると考えている。

(2) アジア競技大会のレガシーづくり

碧南緑地ビーチコートは、令和８年秋の愛知・名古屋アジア競技大会のビーチバレーボールの会場となっている。今後に向けて、アジア競技大会を一過性のものではなく、大会レガシーとして後世に引き継いでいく必要があり、そのために、ビーチコートが市民により身近でなくてはならないと考えている。

レガシーづくりに向けた具体的な取り組みとしては、既存のビーチスポーツ大会の充実を図るとともに、①大会モニュメントの制作、②国内トップクラスの全国大会の誘致・開催、③地元トップチーム（トヨタ自動車ビーチバレーボール部＜アジア競技大会日本代表＞）による小中高生向け教室の継続、④小学生向けのスポーツ教室でのビーチコートの活用、⑤小中学生向け出前講座、⑥遠足での利用、⑦スポーツ少年団向け無料貸し出し、⑧高齢者向け無料貸し出し、といったことを進めながらビーチコートをフル活用していきたいと考えている。

８　外部評価者の評価【Ｃ】

碧南市独自の施設であるビーチコートを活用したビーチバレーボールならびにビーチサッカーを中心に、スポーツ振興と地域振興の両面において精力的に事業が展開されたことがうかがえます。特に、アジア競技大会のテスト大会として位置づけられたJBVシリーズを成功裏に開催されたことは特筆すべきことと考えられます。ビーチスポーツの競技人口の拡大に向けて企画や広報に力を入れる予定である点も評価できます。引き続き、事業の充実に努めていただくよう望みます。

９　評価結果をふまえた今後の取り組み方向【Ａ】

本年９月に碧南緑地ビーチコートで開催されたアジア競技大会ビーチバレーボール競技は、地元碧南市を練習拠点としている日本代表チームが銅メダルを獲得するなど大盛況のうち幕を閉じました。本市としてはこれを更なる契機として、引き続き競技関係者、地元企業、学校など様々な担い手と連携しながら全国規模の大会を開催するなどして、スポーツ振興と地域振興の両面の充実を図ってまいります。

また、多様なメディアを活用して広報にも力を入れ、多くの皆さんにここ碧南緑地ビーチコートを知ってもらい、アジアや世界につながるビーチスポーツの拠点として名を馳せるよう、一歩ずつ地に足をつけ進めてまいりたいと考えています。

＊(Ｐ)lan（計画）→(Ｄ)o（実施）→(Ｃ)heck（点検・評価）→(Ａ)ction（見直し・処置・改善）

主要事業名	５．無我苑自主事業	所属課	生涯学習課(無我苑)

１　第６次総合計画での位置づけ

第７章　基本施策　施策分野２　基本施策９　芸術・文化　①自主運営事業の充実

２　事業の目的・理由【Ｐ】

目的
全国的にも珍しい哲学をテーマにした施設であり、その施設のよさを周知するとともに、様々な事業を通して、日常では得難い「哲学的なたいけん」を感じてもらえるような機会を提供する。
評価対象とした理由
施設の設置目的である市民の心の健康及び精神文化の醸成並びに文化交流の推進を図るため。

３　事業費

6 年度決算額	7 年度決算額	8 年度予算額
6,205 千円	7,135 千円	7,606 千円

４　取り組みの内容【Ｄ】

自主事業名	実施時期	定員	参加者（延べ）	参加率
蓮如ウォーク協賛事業 「動くてんとう虫をつくろう」	4 月 20 日	30 人	30 人	100.0%
春のコンサート（２部制） 「犬飼裕哉ピアノソロコンサート～風薫る旋律を奏で～」	5 月 17 日	各 48 人	95 人	99.0%
心と身体のバランスを整える指ヨガ教室（全２回）	5 月 15 日 6 月 29 日	16 人	16 人	100.0%
和の歳時記教室 「野草茶を学ぶ」	6 月 27 日 6 月 28 日	各 8 人	16 人	100.0%
折り紙教室　「夏の風景」	7 月 5 日	10 人	6 人	60.0%
なんば提灯作り教室	7 月 19 日	10 人	6 人	60.0%
納涼落語会	8 月 2 日	50 人	44 人	88.0%
第１回哲学講座　「なぜ涙がでるのか」	8 月 9 日	20 人	25 人	125.0%
和の歳時記教室 「稲わらで鍋敷きを作る」	8 月 29 日 8 月 30 日	各 8 人	10 人	62.5%
第２回哲学講座 「難しい選択はどのようにすればいいのか」	9 月 6 日	20 人	25 人	125.0%
ハサミ切り絵体験講座	9 月 20 日	10 人	10 人	100.0%
万華鏡作り教室	10 月 3 日	10 人	8 人	80.0%
第３回哲学講座 「差別はどうすればなくせるのか？」	10 月 18 日	25 人	25 人	100.0%

心と身体を元気にする音読講座	11月1日	12人	12人	100.0%
第４回哲学講座 「出来事を自分事として受け止めるには」	11月29日	25人	25人	100.0%
和の歳時記教室 「神木を使ってお正月飾り」	12月5日 12月6日	各12人	24人	100.0%
新春コンサート（２部制） 「音楽で紡ぐ世界の旅」	1月31日	各48人	96人	100.0%
碧南の歴史を学ぶ（２部制） 「近世・近代の西端地区」	1月23日	各20人	41人	102.5%
はじめての聞香教室	2月14日	20人	20人	100.0%
茶の湯文化講座 「茶の湯のリーダー　小堀遠州の手紙」	3月1日	28人	34人	121.4%
瞑想回廊展示関連事業ワークショップ				
杉浦春一展（全３回） 静物画を描いてみよう	4月20日 4月27日 5月11日	5人	5人	100.0%
森正樹展 コラージュブックを作ろう！	8月10日	10人	8人	80.0%
森正樹展 牛乳パックで車を作ろう！	8月17日	5人	3人	60.0%
サクラデファミリア展 パンダチャームを作ろう	11月2日	5人	3人	60.0%
瞑想回廊展示関連連携事業				
サクラデファミリア展 アーティストトーク	10月26日	－	15人	－
蘭陵亭子梅ライブペイント	12月27日	－	51人	－

５　達成度を測る指標

指　標	自主事業参加率				
指標の説明	講座等の定員に対する参加者の割合				
年　度	5年度	6年度	7年度	8年度	12年度
目標値	95.0%	95.0%	95.0%	95.0%	
実績値	88.1%	97.3%	93.0%		

６　取り組みの成果【Ｃ】

(1) 再来苑者及び村民登録更新者の確保
・新規村民登録者４２人（前年度４７人）
・立礼茶席スタンプカード（２０服利用につき１服進呈）３０４枚が満欄となって使用された。（前年度２９９枚）
(2) 魅力的な事業の実施
・無我苑ならではの事業
立礼茶席の呈茶数が１８，０５４服（前年度１４，１１８服）で開苑以来最高となった。

涛々庵茶会を年１０回、三曲定期演奏を年１２回開催。
哲学講座を年間４回開催。
茶の湯文化講座を開催。
瞑想回廊展示作家によるワークショップを４回、関連イベントを２回開催。
・地元に関連のある事業
碧南高等学校美術部の作品展を開催。（令和元年度開始で７回目）
碧南の歴史を学ぶ講座を開催。（令和４年度開始で４回目）
昔から碧南に伝わるなんば提灯を作る教室を開催。（令和元年度開始で７回目）
・各種連携事業
梅原猛名誉村長紹介コーナーにおいて、作家の協力を受け連携展示実施。
(3) 安心して安全に利用していただくために修繕等を実施
・研修道場ガスメーター取替修繕
・変圧器絶縁油交換修繕
・構内第１柱ＰＡＳ取替修繕　等

７　残されている課題【C】

(1) 施設の維持管理
開苑から３０年が経過し、各施設が老朽化してきており、また、日本庭園の景観も崩れてきている。予算の制約がある中、優先順位をつけ施設管理を行っていく必要がある。
(2) 再来苑者及び村民登録更新者の確保
引き続き、安心して利用いただける体制づくりや、魅力的な事業、特典を引き続き検討して行く。
(3) 運営体制の見直し
令和８年度より、原価高騰のため立礼茶席の呈茶料の値上げを行ったが、世界的な抹茶の需要拡大により、抹茶の価格高騰および供給がひっ迫している状況は続いている。購入できないとまではなっていないものの、市場の動向を注視する必要がある。
また、引き続き、利用者の実績等をふまえ、効率的な運営を行っていく。

８　外部評価者の評価【C】

不寛容と社会の分断が深刻の度合いを増している現代において、人間のあり方の本質を見つめ直す哲学の重要性はいっそう高まっていると言えます。全国的にもユニークな文化施設である無我苑において、令和７年度も「哲学」と「茶道」を２本の柱として、魅力あふれる活動がさまざまに展開されていることは、とても意義深いものと考えられます。毎年新しい企画を取り入れておられること、小中学生へのアプローチを視野に活動しておられることも特筆すべきことと思われます。引き続き、事業の継続と発展に努めていただくよう望みます。

９　評価結果をふまえた今後の取り組み方向【A】

今後も「哲学」と「茶道」を中心とした事業を展開し、多くの方に「てつがく体験」をしていただけるよう努めてまいります。
また、地元の中高校生の展示会を始めとする小中高校生にアプローチする事業を引き続き実施してまいります。

＊(P)lan（計画）→(D)o（実施）→(C)heck（点検・評価）→(A)ction（見直し・処置・改善）

主要事業名	６．文化財の啓発事業	所属課	藤井達吉現代美術館

１　第６次総合計画での位置づけ

第７章　基本施策　施策分野２　基本施策９ 芸術・文化　①自主運営事業の充実

２　事業の目的・理由【Ｐ】

目的
文化財は、地域の歴史、文化を理解するのに不可欠な地域の財産であり、その保存だけではなく、活用や情報発信を図ることが重要である。 文化財の調査・研究の成果を踏まえ、歴史系企画展を始めとする文化財の啓発事業を実施することで、文化財保護や郷土の歴史への理解を深め、愛着を持ってもらうことを目的とする。
評価対象とした理由
文化財の保護には、市民の理解と協力が必要不可欠である。そこで、文化財の存在及びその重要性を広く市民に知っていただくには、啓発事業の推進が重要であるため、そうした取組みをしている事業などを評価対象とした。

３　事業費

6 年度決算額	7 年度決算額	8 年度予算額
15,711 千円	4,006 千円	8,060 千円

４　取り組みの内容【Ｄ】

(1) 歴史系企画展「永井直勝没後 400 年　長田・永井一族」の開催
ア　内容　碧南出身の戦国武将・大名である永井直勝（1563-1625）の没後 400 年を記念し、直勝を生んだ三河大浜（現碧南市）の長田家の足跡と、直勝以降江戸幕府を支えた永井家の一族の活躍を紹介した。
イ　期間　令和７年５月２４日（土）～７月６日（日）　３８日間
ウ　会場　藤井達吉現代美術館
エ　主催　碧南市・市教育委員会・藤井達吉現代美術館
オ　協力　市文化財保護審議会
カ　観覧料　一般５００円　高大生４００円　中学生以下無料
キ　観覧者数　３，４５０人（６年度　８，５０２人　４４日間）
　１日平均観覧者　９０．７人（６年度　１９３．２人）
ク　関連行事（会場はすべて藤井達吉現代美術館）
　(ｱ) 記念講演会「戦国織豊期における大浜の神官武家長田氏の動向」
　　期日　令和７年６月７日（土）
　　講師　村岡幹生氏（中京大学名誉教授）
　　聴講者　７１人
　(ｲ) 長田・永井サミット
　　期日　令和７年６月２２日（日）
　　報告者・パネラー　佐藤友理氏（岐阜市歴史博物館学芸員）、千田康治氏（高槻市立しろあと歴史館長）、山下登氏（郷土史家）、豆田誠路（市文化財課）
　　聴講者　１００人

(ｳ) ワークショップ「検証！昔の碧南の地形」
期日　令和７年６月２９日（日）
講師　藤井達吉現代美術館　教育普及担当
参加者　２１人
(ｴ) 学芸員によるギャラリートーク（期間中７回開催）　参加者　計１８４人

(2) 文化財展「碧南が築いた学び舎　～地域が育てた碧南高校 100 年のあゆみ～」の開催
ア　内容　令和８年で創立から１００周年を迎える県立碧南高等学校。その誕生から現代に至る歴史を、文書や写真資料で紹介した。
イ　期間　令和８年２月７日（土)～３月５日（木）　２３日間
ウ　会場　文化会館
エ　観覧料　無料
オ　観覧者数　約１，０００人（６年度　約１，６００人）
１日平均観覧者　約４３．４人（６年度　約６９．５人）
カ　ギャラリー・トーク（担当学芸員による展示説明会）
令和８年２月１４日（土）１６人、２月２８日（土）１０人

(3) 文化財防火デー行事の開催
ア　内容　法隆寺金堂壁画が焼損した１月２６日を「文化財防火デー」と定め、全国的に文化財防火運動を展開している。当市においても、碧南消防署及び地元住民の協力のもと、１１９番訓練通報による模擬文化財の持出し訓練と住民参加による消火器取扱訓練を実施した。
イ　日時　令和８年１月１４日（水）
ウ　場所　（神有）天満社（神有町）
エ　内容　出火想定による消火訓練（通報・重要物件搬出）、消火等の訓練
オ　参加者数　１５人（６年度　２５人）

(4) 古文書入門講座の開講
ア　内容　版元蔦屋重三郎の版本の仮名文字や大浜に関する古文書などを解読した。
イ　日時　令和７年９月１８日、１０月２日・１６日・３０日　すべて（木）
ウ　場所　藤井達吉現代美術館
エ　参加費　４００円
オ　参加者数　延べ５２人（６年度　延べ６４人）

５　達成度を測る指標

指　標	１日当たりの観覧者数				
指標の説明	文化財を活用する事業の一環として実施した歴史系企画展、文化財展、文化財防火デー行事、古文書講座の１日当たりの観覧者数、参加者数。 （開催期間が画一的でなく比較可能にするため。）				
年　度	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度	12 年度
目標値	170 人	170 人	170 人	170 人	170 人
実績値	166 人	304 人	162 人	－	－

６　取り組みの成果【Ｃ】

(1) 歴史系企画展

令和７年度は「長田・永井一族」展として、当市出身の戦国武将・大名である永井直勝の没後４００年を記念し、永井家とその出自である長田家に焦点をあてて企画、展示した。

企画展の１日平均観覧者９０．７人は、巡回展「没後１００年　富岡鉄斎」を開催した令和６年度よりもむしろ、自主企画展「清澤満之の世界展」を開催した令和５年度の９３．９人に近似している。

会期中、ＮＨＫ名古屋「おはよう東海」内の「おでかけ情報」に、戦国武将の企画展として紹介されたように、戦国時代を好む歴史ファンの観覧があった。また、碧南市内に長田姓、県内に永井姓の市民・県民が一定程度見受けられ、長田姓・永井姓といった今回のテーマに沿った方の観覧があった。歴史系企画展は、碧南地域の歴史・文化の顕彰をねらいの一つにしており、こうした切り口から碧南という地域を知っていただくことができた。

(2) 文化財展

この展示は、創立１００年を迎えた碧南高校のあゆみを、地域との関わりのなかで展示したものである。碧南高校の前身が新川・大浜・棚尾・旭４町村が立ち上げた組合立の国民学校であることから地域が生んだ学校であることや、戦中・戦後の組織の変遷、美術工芸家藤井達吉との関わりなどを紹介した。観覧者には碧南高校卒業生が多くみられ、伊勢湾台風被災時に碧南高校生が堤防の切れた箇所に土嚢を運ぶ手伝いをしたという写真パネルをみて、亡くなった父が生前この手伝いをしたと話していたという観覧者もあった。このように、碧南高校が地域と関わってきた側面を中心に、観覧者に伝えることができた。

(3) 文化財防火デー行事

文化財防火デーは文化庁・消防庁主唱のもと全国的に展開されているもので、当市では毎年市域の１地区で文化財防火デーの行事を実施している。令和７年度は、旭地区・神有の神社で、参加者に文化財防火に関し啓発することができた。

(4) 古文書入門講座

今年で１１回目の開講となった。学芸員１名を講師として実施した。開催時期のＮＨＫ大河ドラマを念頭に、版元蔦屋重三郎の版本の仮名文字や、大浜に関する古文書などを解読した。講座では一貫して分かりやすく伝えることに努め、受講者には一定の満足感が得られたと考えている。

７　残されている課題【Ｃ】

歴史系企画展は、令和６年度が京都国立近代美術館・富山県水墨美術館との巡回展「没後 100 年 富岡鉄斎」で事業費が増加した分、観覧者数も増加した。一方、令和７年度は令和５年度と同様の自主企画展で、観覧者数が減少したが事業費も減少した。ただ、事業費が減少してもある程度観覧者数を確保できるように、企画展のテーマがなにより重要と感じる。文化財保護や郷土の歴史への理解を深め、愛着を持ってもらうという目的に照らし、今後もテーマ設定から実施に向けて取組みを進めていきたい。

文化財防火デー行事は、文化庁・消防庁の主唱によって全国的に実施されているものであるが、文化財行政所管課として消防署と連携を図る良い機会となっている。令和７年度は旭地区のなかで神有という１地域に限って行ったため、参加者が前年度より減少した。しかし、今後も市内の各地区を回って、引き続き文化財防火運動を展開し、文化財保護に対する関心を高めたい。

継続して実施している古文書入門講座は、参加者が漸次減少している。そのため、生涯学習の観点で市民をはじめとした受講者の需要を調査し、古文書解読レベルが各人それぞれでレベルアップできるよう学習を支援していきたい。

８　外部評価者の評価【Ｃ】

歴史系企画展、文化財展、文化財防火デー行事、古文書入門講座という４つの柱を中心として、文化財の啓発事業が堅実に進められている様子がうかがえます。それぞれの事業に多くの参加者があったことに加え、参加者へのアンケートにおいて高い満足度が示されていることからも、文化財の啓発事業が意義あるものとして市民に受け止められていることがわかります。引き続き、事業の継続と発展に努めていただくよう望みます。

９　評価結果をふまえた今後の取り組み方向【Ａ】

歴史系企画展及び文化財展については、目的に掲げている「文化財保護や郷土の歴史への理解を深め、愛着を持ってもらう」よう、展示内容を企画し事業を進めていきたい。次に文化財防火デー行事は、文化財や防火への意識向上のため引き続き地域住民の参加を促し実施する。また、古文書入門講座は、くずし字の解読を通じて地域史料へ理解を深めていただく貴重な機会として取り組んでいるが、今後も利用者のニーズを踏まえながら進めたい。

＊(Ｐ)lan（計画）→(Ｄ)o（実施）→(Ｃ)heck（点検・評価）→(Ａ)ction（見直し・処置・改善）

主要事業名	７．企画展開催事業	所属課	藤井達吉現代美術館

１　第６次総合計画での位置づけ

第７章　基本施策　施策分野２　基本施策９　芸術・文化　①自主運営事業の充実

２　事業の目的・理由【Ｐ】

目的
国内外の魅力ある優れた美術作品を紹介する企画展や、この地方を中心に活躍した作家や芸術文化に焦点を当てた企画展を開催する。また、藤井達吉の業績を顕彰するために収蔵されている作品を常設展示する。 これらを通じ、市民の芸術文化の向上を支援するとともに、ふるさと碧南に対する愛着や誇りを育むことを目的とする。
評価対象とした理由
市民に対して最も大きく働きかけるものは展示であり、市民に親しまれ、訪れたくなるような美術館となるためには、魅力ある企画展と郷土が生んだ芸術家藤井達吉を顕彰する常設展の開催が必要不可欠であるため。

３　事業費

６年度決算額	７年度決算額	８年度予算額
39,884 千円	52,789 千円	55,782 千円

４　取り組みの内容【Ｄ】

(1) 企画展

令和７年度は、所蔵作品展として「美空間への散歩　―ア♡ラ♡カ♡ル♡ト―」を開催し、巡回展覧会として「橋口五葉のデザイン世界―夏目漱石本の装幀から新板画へ―」及び「川端龍子展」を単館による展覧会として「吉岡弘昭展」を開催した。

ア　企画展数：令和７年度　５（全て有料）（令和６年度　５（全て有料））

イ　観覧者数：令和７年度　２７，９３５人（令和６年度　２８，９０１人）

※ア及びイは歴史系企画展を含む数値。

(2) 常設展

５期に分け藤井達吉の多くの作品を展示した。

観覧者数：令和７年度　１９，８１８人（令和６年度　２３，８９２人）

(3) 共催展等

第38回碧南市野外彫刻絵画コンテスト入賞作品展、第17回碧南文化協会選抜美術展、るるる展、HEKINANからそれぞれのスピリッツ展17th、を開催した。また、市民ギャラリーとして美術作品等を創作している皆さんの発表の場として多目的室Ｂを有料で開放した。

観覧者数：令和７年度　２，１９５人（令和６年度　４，６０８人）

５　達成度を測る指標

指　標	観覧者数				
指標の説明	企画展、常設展、共催展などの総観覧者数				
年　度	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度	12 年度
目標値	57,000 人	60,000 人	50,000 人	55,000 人	60,000 人
実績値	56,853 人	57,401 人	49,948 人	ー	ー

６　取り組みの成果【Ｃ】

(1) 企画展

令和７年度の企画展は、新収蔵作品を中心に紹介した「美空間への散歩　―ア♡ラ♡カ♡ル♡ト―」から始まり、「吾輩ハ猫デアル」など書籍の装幀や挿絵、素描や木版画、さらに復刻された浮世絵（新板画）などを紹介した「橋口五葉のデザイン世界―夏目漱石本の装幀から新板画へ―」、圧倒的なスケールで超大作を生み出し、画壇に旋風を巻き起こした日本画家・川端龍子の作品を紹介した「川端龍子展」、名古屋市を拠点に活動する画家・吉岡弘昭の初期の油彩作品から諧謔的な表現により独自の作品世界を切り拓いた版画、水彩画及び新作を紹介した「吉岡弘昭展」を開催し、幅広いジャンルの作品を観覧者に提供できた。

新聞等のメディアへの広報活動やポスター掲示を行った結果、企画展、常設展、共催展等の観覧者総数は49,948人であった。令和６年度と比べ、照明ＬＥＤ化工事により２ヶ月間休館したこともあり観覧者総数は減少しているが、川端龍子展では期間来場者数が２年ぶりに１万人を超える企画展となり盛況であった。

イベントとしては、地元商店及び館内カフェとの連携に力を入れ、コラボメニューを提供したことで、地元商店等の来店者が増加するなど、地域の活性化及び魅力発信にも繋がった。

その他、美術館を知っていただくために「大浜てらまちウォーキング」「県民の日学校ホリデー」では観覧無料とし多くの方に来館して頂いたほか、愛知県が発行する県内３６の美術館・博物館等に平日限定でお得に入館できる「あいち・なごや周遊観光パスポート」にも参画し、新たな客層の呼び込みも行った。

また、橋口五葉展では、「吾輩ハ猫デアル」の書籍の装幀をしたことにちなみ、愛猫の写真を募集し館内に掲示するイベントや、吉岡弘昭展では、展示室の１つを「らくがきランド」として、来場者自身が落書きや切り絵などの作品を制作できるイベントコーナーを設置し、その作品を展示室の壁に貼れるようにするなど、来場者参加型イベントも実施した。

来場者サービスとしては、図録及びグッズ販売にも力を入れ、令和６年度に購入したカプセルトイマシンを利用したグッズ販売も開始し、吉岡弘昭展では作家本人によるサイン会を実施し好評であった。結果、図録等売上料は６６８万３千円余で、前年度対比１．６倍となっている。

企画展のアンケートでは「とても良かった」「良かった」が約９５％で令和６年度と比べ４％ほど高い数字となり、「普通」と回答した方は約６％増加した。美術館がきれい、企画展が面白かった、音声ガイドをまた使いたいなど好意的な意見のほか、美術館への案内看板が分かりにくい、駐車場が分かりにくいといった意見もあった。

(2) 常設展

常設展は、美術館の名前を冠している藤井達吉の作品の良さを伝える絶好の機会である。令和７年度は、多くの作家が愛する「花」をモチーフにした展示、達吉が好んだ椿の花の作品や壮年期から晩年までの達吉に関するフォトコレクションなどの展示を行い、達吉の作品を中心に他の作家の作品も紹介することができた。また、展示品に付した説明文をスマートフォンで案内する無料アプリ「ポケット学芸員」も引き続き運用している。

(3) 共催展
　碧南市の文化協会による展示や藤井達吉の創作魂を継承する作家の作品、碧南在住の作家による展示、野外彫刻絵画コンテストなどを開催し、市民の方へ来館していただく機会を提供することができた。

7　残されている課題【C】

大浜まちかどサロンとの共用駐車場として１６台、美術館駐車場として１６台の合計３２台確保しているが主に土曜、日曜、祝日は、大浜まちかどサロンの利用者も多く、美術館近くの駐車場が不足しがちになる。その際は徒歩７分の臨時駐車場などへ誘導しているが、当館から少し離れていることもあり、特に天候の悪い日は駐車場に対する不満が来館者から寄せられている。現在適当な用地を交渉・探索中であるが、すぐに対応するのは難しい状況である。また、令和１０年度にて築２０年が経過するため、開館当時からの空調機器等の更新工事を計画的に進める必要がある。

8　外部評価者の評価【C】

令和７年度も趣向を凝らした企画展、常設展、共催等展が開催されています。広報活動や地域との連携、鑑賞を興味深いものにする工夫にも力が注がれています。結果的に本事業に多くの参加者があり、参加者へのアンケートでも肯定的な評価がきわめて多くなっています。市民の精神生活の質の向上に大いに資する事業となっている様子がうかがえます。引き続き、実り多い仕方で事業が継続されることを望みます。

9　評価結果をふまえた今後の取り組み方向【A】

碧南市の文化及び芸術を発信する代表的な施設として、当館は地域の歴史に焦点を当てた歴史系企画展をはじめ、現代美術等の様々な時代やジャンルの展覧会を引き続き提供する。また、当館の地元である大浜地域及び学校との連携を継続し、市民に開かれた美術館となるよう努める。
　また、多くの市民の皆様が利用しやすくなるよう、市の広報誌に無料観覧券を掲載するとともに、市の公式ＬＩＮＥで無料観覧クーポンを発行し、若い世代から高齢者まで幅広い世代の方が気軽に立ち寄れ、日常生活を豊かにする美術館となるよう取り組む。

＊(P)lan（計画）→(D)o（実施）→(C)heck（点検・評価）→(A)ction（見直し・処置・改善）

主要事業名	８．教育普及事業	所属課	藤井達吉現代美術館

１　第６次総合計画での位置づけ

第７章　基本施策　施策分野２　基本施策９　芸術・文化　②教育普及の充実

２　事業の目的・理由【Ｐ】

目的
幅広い世代の人々に美術に親しんでもらえるよう、様々な教育普及事業に取り組み、美術情報の提供に努める。また、学校教育を始め他の教育活動との連携を図っていく。
評価対象とした理由
教育普及事業は、美術館の理念の中で位置づけられている重要な事業の一つであるため。

３　事業費

6 年度決算額	7 年度決算額	8 年度予算額
12,728 千円	15,075 千円	13,136 千円

４　取り組みの内容【Ｄ】

(1) 講演会
　各企画展において、講演会や記念対談を開催。
開催回数：令和７年度　６回（令和６年度　５回）
参加者数：令和７年度　３３２人（令和６年度　２５５人）
(2) ギャラリートーク
　当館学芸員により企画展の内容を分かりやすく解説し、市民の芸術文化の向上を支援するため、各企画展でギャラリートークを開催した。
開催回数：令和７年度　８回（令和６年度　１４回）
参加者数：令和７年度　２５８人（令和６年度　３７５人）
(3) ワークショップ
　美術館に親しみを持ってもらい、創作活動の楽しみを味わってもらうため、子どもから大人まで楽しめるワークショップシリーズ、親子ワークショップシリーズ、企画展ごとの関連ワークショップなどを開催した。
開催回数：令和７年度　５７回（令和６年度　５９回）
参加者数：令和７年度　６３４人（令和６年度　６８１人）
(4) 美術館学習
　優れた美術作品を鑑賞する美術館学習を開催することで、豊かな感性や創造力を高めるとともに、将来にわたって芸術文化に親しむ心を育てることを目的に市内小学５年生が川端龍子展を、中学１年生が吉岡弘昭展を鑑賞した。
参加者数：令和７年度　１，３７９人（令和６年度　１，３６１人）

５　達成度を測る指標

指　標	参加者数				
指標の説明	講演会、ギャラリートーク、ワークショップ、美術館学習の合計参加者数				
年　度	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度	12 年度
目標値	1,500 人	3,000 人	2,500 人	2,600 人	2,500 人
実績値	3,687 人	2,672 人	2,603 人	－	－

６　取り組みの成果【Ｃ】

(1) 講演会

例年に引き続き、企画展の内容に精通した講師を全国から招き、より内容を掘り下げたものを開催できた。中でも橋口五葉展記念講演会「漱石と五葉の魅力探訪」は６４人、川端龍子展記念講演会は２講演開催し「日本画家・川端龍子の会場芸術」は５０人、「龍子と達吉」は６５人、吉岡弘昭展記念講演会「プリントとペインティングの往還」は６１人で多くの方が参加した。

(2) ギャラリートーク

学芸員がユーモアを交えるなど工夫をこらした説明により、作家や作品解説などを行うとともに参加者からの質問に対応し、作家や作品に対する理解を深めた。

(3) ワークショップ

ア　子どもから大人まで楽しめるワークショップでは、年中行事に合わせた内容のものや、外部講師を呼んでの陶器の箸置きづくり、シルクスクリーン印刷体験など、毎回様々なジャンルを用意し、個々の自由な発想を大切にした講座を開催した。

イ　企画展関連のワークショップでは、創作をとおして展覧会の内容やコンセプトに迫るプログラムを行った。川端龍子展では「日本画で秋を描こう」と題し、日本画で使用する画材を使用し制作を行った。また、吉岡弘昭展では「らくがきランド」と題し、吉岡氏自身が講師となり紙にらくがきをして好きなものなどを制作した。

ウ　ワークショップは比較的に若い世代が多く参加することから、令和７年度から募集を電子申請による募集を開始したことで、申請や事務処理の効率化を図ることができた。

(4) 美術館学習

作品を見た際の自分の気持ちを整理・分析するワークシートの作成、対話型鑑賞を取り入れる等、児童生徒の美術鑑賞を深めるサポートができた。また学校とは話し合いも多く重ね、情報共有を図ることができた。

７　残されている課題【Ｃ】

講演会については、令和７年度は前年度より多く開催でき、どの講演も一定の参加者数に達してはいるが、今後もこの状態を継続できるよう、企画内容及び広報活動の充実を図っていかなければならない。

ギャラリートークについては、令和７年度の開催回数は企画展関連の他のイベントとの状況により減少したが、一回あたりの平均参加者数が約３２名と前年度より上回っている。今後も気軽な対話形式のものなど、新たな試みを取り入れ、参加者が美術館に親しみを感じてもらえるものも開催していきたい。

ワークショップについては、一回あたりの平均参加者数が約１１名と令和６年度と変わりがないが、令和５年度と比べると令和６年度と同様に平均参加者数が減少傾向にあるので、より魅力的で、充実感を得られるワークショップを開き、リピーター・新規参加者を増やしていきたい。

美術館学習については、教師向け・児童生徒向けアンケートを活用し、より満足度の高いものにしていきたいと考える。
今後とも、リピーターを増やし、継続的に美術館とのつながりを持っていただけるような活動を進めていきたい。

８　外部評価者の評価【Ｃ】

令和７年度も講演会、ギャラリートーク、ワークショップ、美術館学習という４つの柱を中心として、教育普及事業が堅実に進められていることがうかがえます。予算と人員の制約のなかで事業の内容に工夫が施されている点や、参加者が高い満足を得ている点は特筆すべきことと考えます。今後さらにいっそう広報活動を充実させることや、高齢者を対象とする企画を検討されている点も大いに評価できます。引き続き、事業を通した市民の精神生活の質の向上に努めていただきたいと思います。

９　評価結果をふまえた今後の取り組み方向【Ａ】

企画展と連携した高齢者（認知症）及び介護者を対象としたイベントを引き続き開催するとともに、各イベントの内容に工夫を凝らし、魅力あるものとすることで新規の参加者のみならず、リピーターを増やすことにも繋げていきたい。
また、他館のイベントの開催事例を調査研究し、当館のイベントの質を向上させ、市内外の方に親しまれるものとしていきたい。
今後も、美術館と美術、教育普及活動を通して、自己表現や鑑賞の楽しさ、大切さを伝えるとともに、美術館が、市民の方々の一つの居場所となるような取り組みを進めていきたい。

＊(Ｐ)lan（計画）→(Ｄ)o（実施）→(Ｃ)heck（点検・評価）→(Ａ)ction（見直し・処置・改善）

主要事業名	９．水族館活動実施事業	所属課	海浜水族館

１　第６次総合計画での位置づけ

第７章　基本施策　施策分野２　基本施策９　芸術・文化　②教育普及の充実

２　事業の目的・理由【Ｐ】

目的
学校教育との連携を深めるとともに、命ある教材の活用を通じて環境に関心をもつ次世代の育成に寄与する。また、近年の環境問題およびＳＤＧｓの取り組みに合わせ、西三河地方で絶滅の危機にある淡水生物の保護活動や自然観察会等の活動を通して、豊かな自然環境を次世代に継承するため、人と自然をつなぐ学びの拠点としての機能強化に取り組む。
評価対象とした理由
水族館設立当初から継続している事業である。今後も子供たちをはじめとした地域住民にとって意義ある事業として継続していくため。

３　事業費

6 年度決算額	7 年度決算額	8 年度予算額
(1) 4,949 千円	(1) 5,835 千円	(1) 5,762 千円
(2) 51 千円	(2) 51 千円	(2) 85 千円
(3) 1,661 千円	(3) 1,291 千円	(3) 1,346 千円
(4) 4,697 千円	(4) 5,482 千円	(4) 6,113 千円

４　取り組みの内容【Ｄ】

(1) 水族館展示管理事業
　展示生物の収集は、条件の良い時期に実施した。
　主な県外収集先：４月・１０月　福井県、１０月　高知県、１１月　和歌山県、１１月・２月　三重県、１２月・１月　静岡県

(2) 校外学習実施事業
　ア　市内小学校２・４・６年生の水族館学習の要請に対応
　　受け入れ人数：延べ６３組　２，０７６人（６年度：延べ６２組　１，９６５人）
　イ　来館する市外学校関係の要請に応じる講話、実習等（６年度：１４件）
　　受け入れ人数：中学生職場体験　８件８人
　　大学生博物館実習　１件１人
　　大学生・専門学校生水族館実習　３件３人
　　博物館関連講座　２件２６人

(3) 博物館教育普及活動事業
　ア　教育普及活動
　　バックヤードツアー、写生大会、フォトコンテスト、自然観察会、サマースクール、工作教室を開催した。
　　参加者数：３０件　５，５６８人　（６年度：１６件　５，９６４人）
　イ　市外学校団体およびその他団体の要請により実施した教育普及活動
　　講話、ワークシート、バックヤードツアーなどを開催した。

対応件数：５９件　２，５９７人

ウ　希少淡水生物等の繁殖数（令和７年度実績）

ニホンイシガメ：２３
ヤリタナゴ：１９
ミナミメダカ：３１２
ウシモツゴ：１３１
カワバタモロコ：１３６
イタセンパラ：７０

(4) 特別展開催事業

夏の特別展「源流をたどる～水はどこからやってくる？～」（７月１９日～９月２８日）及び冬の特別展「飼育革命」（１１月８日～令和８年２月１５日）を開催した。

特別展開催期間の入館者数：計２件　延べ９６，５８８人（６年度：計２件　延べ８６，２５７人）

５　達成度を測る指標

指　標	(1) 市内外学校関係団体からの要請に対する対応件数 (2) 開催延べ日数 (3) 水族館入館者数				
指標の説明	(1) 市内外学校の校外学習・出張授業等要請への対応件数 (2) 特別展、イベント等の開催延べ日数 (3) 水族館の入館者数				
年　度	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度	12 年度
目標値	(1) 90 件 (2) 250 日 (3) 160,000 人	(1) 90 件 (2) 250 日 (3) 160,000 人	(1) 90 件 (2) 250 日 (3) 160,000 人	(1) 90 件 (2) 250 日 (3) 160,000 人	(1) 145 件 (2) 500 日 (3) 200,000 人
実績値	(1) 98 件 (2) 318 日 (3) 209,825 人	(1) 144 件 (2) 498 日 (3) 192,925 人	(1) 138 件 (2) 615 日 (3) 186,535 人	－	－

６　取り組みの成果【Ｃ】

令和７年度の入館者数は、前年度に比べて６，３００人余、率にして約３．３％の減となった。主な要因としては、約４か月間改修のため２階展示エリアを閉鎖していたことによる入館控えなどが考えられる。大きな事業としては、前年度から２年に亘り実施した２階展示エリアの大規模改修が完了した。ミュージアムショップの売り上げも年々伸びており、来館者の満足度の向上にも寄与している。

(1) 資料収集事業

三河湾、伊勢湾に生息する海水魚をはじめとして、国内に生息する淡水魚や両生類、爬虫類など、合計で３１８種、５，５２０点（令和８年３月３１日現在）の生物を展示することができた。毎日開催している大水槽の給餌解説では、マアジが群れで素早く泳ぐ姿を演出し、来館者に生きものの魅力を伝えている。過去に飼育経験のないマサバの群れ展示に挑戦したほか、正面入口にある展示水槽では、カニ類を中心とした干潟の生き物の展示に内容の刷新を図った。

(2) 校外学習実施事業

市内の小学２・４・６年生の学習受け入れについて、計画どおり実施することができた。

また、中学２年生の職場体験学習についても、例年同様に対応することができた。その他毎年実施している市内小学４年生を対象とした「ヤドカリとイソギンチャク」の訪問授業では、生きたヤドカリを教材として活用し、実物に触れる機会を設けることでより効果的な学習を提供することができた。

(3) 博物館教育普及活動事業

博物館実習、水族館実習については、令和７年度も予定どおり実施することができた。

また、学校団体およびその他の団体に対して実施している学習活動（講話、ワークシート、バックヤードツアーなど）においては、２，５００人を超える受け入れを行った。自然観察会では、「矢作川の河口で自然と遊ぼう！」をはじめとして計４項目の観察会を開催し、全講座で定員に達するなど、人気事業となっている。工作教室も好評で、「傘つくり」など３講座を計１５回実施し、２，０００人を超える参加があり、満足度の向上に寄与した。さらに、ビオトープボランティアの登録者数が増加傾向にあり、自然環境に関心をもつ来館者が増えてきていると考えている。

(4) 特別展開催事業

夏の特別展では、普段の暮らしの中で必要不可欠な水をテーマとして、海から川、源流に遡る構成で水環境やそこに暮らす生きものを紹介した。また、絵本作家の作品を用いた、絵巻仕立ての展示により、川と自然と人間の関係を解説したほか、水に関する絵本コーナーも設置した。

冬の特別展では、飼育技術の革新をテーマとして、かつては困難とされていた、イカ類やサンゴ類、藻類の飼育事例を紹介した。さらに、養殖用の人工餌料やふ化仔魚に与えるエサのほか、飼育水の水質維持のための技術や循環設備などについて、パネルを使用して項目別に紹介した。

７　残されている課題【Ｃ】

(1) 資料収集事業

飼育展示業務は、日々のルーチン作業に加え、生物の健康状態に合わせた管理や来館者の満足度向上を目的としたバックヤードツアーやイベント開催など、多岐にわたる。そのため主要な業務である生物収集に充てる時間の確保が難しくなっている。加えて、自然環境の悪化や熱中症予防として夏季の屋外業務の制限など、生物の確保が今まで以上に難しい状況となっている。

(2) 校外学習実施事業

学校行事（遠足、見学学習など）は、市内外を問わず実施時期が被り、来館時期が集中することから、職員対応に苦慮している。対応が難しい場合には、ワークシートを活用した学習プログラムの利用を促すなど、運用を工夫することにより対応している。一方、水族館学習には欠かせないバス利用について、予算削減に伴う運行回数の抑制を求められており、今まで同様の活動の維持が困難な状況にある。

(3) 博物館教育普及活動事業

実習や講義は、募集対象が中学生、専門学校生、大学生と幅広く、年々希望件数は増えている。しかし、対応する人員確保が難しく、受け入れ期間と定員を限定して対応せざるを得ない状況にある。また、自然観察会等の屋外活動は、参加者の安全確保に加え、熱中症対策が不可欠となっているため、開催日の設定や休憩場所の確保など運営上配慮すべき事項が増えており、実施するうえで制約が生じている。

(4) 特別展開催事業

特別展会場は、水族館の常設展示エリアの一画を使用しているため、開館時間中の設営作業には制約が多い。また、貴重な標本資料も展示できるよう夜間の温度管理も可能な専用の

展示スペースの確保が必要である。さらに、近年の物価高騰により、会場の開催費用も年々高額になっている。今後は費用対効果を考え、仕様の見直しや開催期間の延長など運用の工夫が求められる。

(5) その他

近年の動物福祉への意識の高まりを受け、飼育環境における適切な展示スペースの確保や、健康・衛生管理、給餌方法等について、今まで以上の生物に配慮した対応が求められている。施設面においても、開館して４３年が経過しており、高架水槽の経年劣化や海水地下貯水槽の状況把握の難しさなど、老朽化に伴う問題が出てきている。施設の長寿命化を図るうえで、修繕箇所の優先順位を明確にし、メンテナンスを目的とした臨時休館の実施を含めた計画を作成し、対応していく必要がある。

８　外部評価者の評価【Ｃ】

展示管理・資料収集事業、校外学習実施事業、博物館教育普及活動事業、特別展開催事業という４つの柱を中心に、水生生物の保護ならびに環境学習の拠点として多様な事業が実施されたことがうかがえます。予算と人員が限られるなか、企画の内容や運営に創意工夫をこらし、結果的に参加者の高い満足度につながっている点は大いに評価できます。ビオトープボランティアの登録者数が増加傾向にある点も特筆すべきことと考えられます。引き続き、事業の継続と発展に努めていただくよう望みます。

９　評価結果をふまえた今後の取り組み方向【Ａ】

当館は、教育委員会所管の教育施設であるため、大学との連携も深め、講義の場の提供や連携事業を行っていく。また、市内外の園児、児童及び生徒の校外活動の場を提供し、学校の教育活動に資することを引き続き積極的に行っていく。未就園児に対しては、２階展示エリア「ぐるんちゃ」を活用し、保護者と共に自然や生きものについて遊びながら学ぶことができるように、施設の保全や展示およびの活動のアップデートを行っていく。

ビオトープ活動は、ボランティア登録者数も安定していることから、引き続き活動を通じて、参加者にどのようなポジティブな変化が生まれたかという「アウトカム（社会的・教育的価値）」を意識した取り組みを推進していく。

＊(Ｐ)lan（計画）→(Ｄ)o（実施）→(Ｃ)heck（点検・評価）→(Ａ)ction（見直し・処置・改善）

主要事業名	10．図書館利用拡大のための事業	所属課	生涯学習課 （市民図書館）

１　第６次総合計画での位置づけ

第７章　基本施策　施策分野２　基本施策９　芸術・文化　⑤施設の特色を活かした運営

２　事業の目的・理由【Ｐ】

目的
赤ちゃんから高齢者まで、誰でも気軽に利用できる文化施設として、利用者の生涯学習活動や趣味・娯楽等の知的好奇心に応えられるサービスや資料の提供に加え、おはなし会や各種イベント、各年齢層を対象とした講座を開催するなど事業を通じて利用者の日常生活に役立つ施設づくりを目指す。
評価対象とした理由
『碧南市の図書館サービス計画（第二次）』では基本理念を「そこに行くのが楽しくなる図書館をめざして」としており、利用者が快適に利用でき、知的好奇心を満たすことができる図書館とするため。また市民と協働で事業・行事を行い、利用者と共に歩む図書館を目指すため。

３　事業費

6 年度決算額	7 年度決算額	8 年度予算額
26,436 千円	25,964 千円	22,613 千円

４　取り組みの内容【Ｄ】

(1)　基本理念「そこに行くのが楽しくなるような図書館をめざして」実現のため、子どもから高齢者まで、幅広い年齢層の市民が図書館を楽しめる行事を行った。昨年度は「閉架書庫ツアー」、中部分館で「タケノコの皮の枚数あてクイズ」「かぼちゃの種あてクイズ」などを行った。また、令和６年度に中部分館で実施した、碧南警察署の協力による「こうつうあんぜんおはなし会」を昨年度は本館で実施し、他機関とのコラボ企画を継続した。

(2)　毎月定例的に「おはなし会」「おひざにだっこのおはなし会」「絵本の時間」を実施した。内容も季節にあわせた内容（例：お正月、節分、たなばたなど）として日本の年中行事を紹介を兼ねる内容とした。また期間イベントとして「こどもとしょかんまつり」（６月）、「夏休み行事」（７～８月）、「へきにゃごまつり」（１０～１１月）など様々な行事を実施した。

(3)　大人向け行事として、歴史系講座「『我が陣営にあるべし！』」（５月）や福祉系講座「『はじめまして！』手話で自己紹介」（１２月）を開催した。同時に図書館所蔵の関連資料の紹介も行い、利用拡大を図った。

(4)　市民ボランティア活動支援のため、「おはなしボランティア養成講座」（６月）「音声訳ボランティアレベルアップ講座」（１０月～１２月）を開催し、市民ボランティアの養成を図った。

(5)　地元住民や利用者と共に歩む図書館を目指すため、活動休止した図書館友の会が実施していた「リサイクル本無料配布」を地元高校のボランティア部生徒にご協力いただき継続実施した。

(6)　１階ＰＣ席の利用者増に対応するため、ＰＣ席を４席増設した。また２階子どもフロアに新聞閲覧席１席を設置した。
(7)　電子図書の利用促進を図るため、秋の読書月間中に使い方講座（１１月）を開催した。また、新刊情報を定期的に館内へ掲示開始した。
(8)　本に親しみ、市民の知的好奇心を喚起し実生活に役立つ情報を入手できるように、新たな資料を受け入れた。

５　達成度を測る指標

指　標	(1) 図書館貸出利用者数 (2) 市民登録者数				
指標の説明	(1) 図書館で資料貸出を行った人数 (2) 利用者カードの登録者数（市内在住者）				
年　度	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度	12 年度
目標値	(1) 160,000 人 (2) 30,000 人	(1) 160,000 人 (2) 30,000 人	(1) 160,000 人 (2) 30,000 人	(1) 160,000 人 (2) 30,000 人	(1) 160,000 人 (2) 30,000 人
実績値	(1) 137,548 人 (2) 34,578 人	(1) 135,186 人 (2) 32,569 人	(1) 134,565 人 (2) 33,218 人		

６　取り組みの成果【Ｃ】

(1)　令和７年度の貸出利用者（資料貸出を行った延人数）は１３４，５６５人で前年比約０．５％減少。一方、年間の市内在住者の新規登録者が６４９人あり、市内在住者総登録者数は３３，２１８人となった。
(2)　図書館入館者は全館合計２１９，２０５人。前年度は２２１，２７８人であったため、２，０７３人前年比約１％減となった。コロナ感染対策が緩和されつつあった令和３年度から毎年入館者数は増加していたが、昨年度は減少した。
(3)　「おはなし会」「おひざにだっこのおはなし会」「絵本の時間」の定例的なお話し会は、それを目的に図書館を訪れる親子で賑わっている。特に０歳から未就園児向の「おひざにだっこのおはなし会」には本館で年間３２４人（１回平均１６人）、南部９４人（同８人）、中部１８９人（同９人）の参加があり、親子で過ごす楽しい時間、同じ年代の子どもを持つ保護者間の交流の場ともなっている。
(4)　歴史系講座「『我が陣営にあるべし！』」は１７人、福祉系講座「『はじめまして！』手話で自己紹介」２０人の参加があった。どちらも大人向けとして実施し、定員２０人オーバーでお断りせざるを得ない問い合わせがあった。（歴史系講座は当日キャンセルがあったため１７人）
(5)　ボランティアに関する講座「おはなしボランティア養成講座」は１５人、「音声訳ボランティアレベルアップ講座」は８人の参加があった。
(6)　ＰＣ席の利用は年間１，３０６回。個人席の希望者と４人共有席の希望者を分けて案内することが可能となった。（従来は個人席希望者が「隣に人がいると集中できない」などの理由で共有席利用をやめる傾向があった）
(7)　電子図書のタイトル数は令和８年３月末で３，１１６点。年間で２，９５８冊の貸出があった。
(8)　新たな資料受け入れ点数は１０，４３９点、除籍等の数は９，６２４点であった。蔵書更新率（*1）は３．５％、蔵書新鮮度(*2)は１．８％となった。（令和６年度受け入れ点数１２，５８６点、除籍等の数９，１２５点、更新率３．７％、新鮮度２．２％）

(*1)蔵書更新率：（新規受入冊数＋除籍冊数）÷年度末蔵書冊数
(*2)蔵書新鮮度：新規受入冊数÷年度末蔵書冊数

７　残されている課題【Ｃ】

(1) 昨年度は入館者数、貸出利用者共に減少した。ＳＮＳやＩＴ技術の進歩により、個人での情報収集が容易になり、本や新聞・雑誌からしか情報が得られない時代ではなくなって久しい。図書館利用者減少の要因にひとつに、この社会進歩が影響している。図書館として、これまで通りの施策を継続しつつ、市民にとって図書館の必要性や存在意義を今一度検討し纏める必要がある。
(2)「図書館に来た経験のない市民をどう図書館へ来ていただくか？」が引き続き課題である。他機関とのコラボ行事を行いＰＲに努めているが、参加者がリピーターになり、図書館利用につながる手段になっているか検討する必要がある。
(3) 碧南高校ボランティア部の行事協力者が昨年度は７名あった。令和６年度から依頼を開始しており、地元高校生との協働の場として継続していく。令和６年度に活動休止した旧図書館友の会の一部メンバーから「図書館の行事のお手伝いをできないか」という声がでており、どのような形で可能か検討中。
(4) 電子図書の貸出が横ばい。未利用者に対するＰＲを実施し、新刊購入も積極的に行い電子図書の利用増加を図る。また、碧南市に関する資料のデジタル化を行い電子図書として保存・公開を推進する。
(5) 団体用資料の消耗が激しいため、新しい資料を補充する。また、外国語を母国語とする利用も増加しているため、昨年度中に市内在住者の多い「ポルトガル語」「ベトナム語」の利用案内を作成した。これらの言語の外国語の資料の充実も必要だが、入手が難しく資料の更新が進んでいない。
(6) 蔵書新鮮度がほぼ横ばいであるが、新しい資料が呼び水となり古い資料も貸出されるため、新しい資料の割合が一定数保たれるよう、資料費を確保する。

８　外部評価者の評価【Ｃ】

令和７年度も、基本理念にもとづいて多くの魅力ある事業が展開されたことがうかがえます。定例のお話し会や大人向けの歴史系、福祉系講座には多くの参加者があり、また参加者が高い満足を得ている点は高く評価できます。「図書館友の会」は残念ながら活動休止したものの、その後若い人を含む方々から図書館ボランティアの申し出が増えていることも、特筆すべきことと考えられます。引き続き、市民の利用実態の把握に努めながら、市民とともに歩む図書館を目指していただければと思います。

９　評価結果をふまえた今後の取り組み方向【Ａ】

地域の情報拠点として、また、市民の知る権利、学習する権利を支援する施設として図書館の役割を果たすため、基本理念「そこに行くのが楽しくなるような図書館をめざして…」に則り、様々な取り組みを実施していきます。

様々な行事を実施して新たな利用者の広がりを目指します。行事については、参加者数は満足度に加え「その後の図書館利用に繋がっているか」を検証します。また他部署と連携を継続し、内容・開催時期を検討し、新規の図書館利用者を開拓します。

また、図書館運営の協力者（ボランティア）として、旧図書館友の会メンバーのうちの有志の方から図書館ボランティアの申し出があり、高齢者の社会参加、図書館業務への理解という面から積極的に協力して頂ける体制を整えるようにしていきます。

＊(Ｐ)lan（計画）→(Ｄ)o（実施）→(Ｃ)heck（点検・評価）→(Ａ)ction（見直し・処置・改善）

６　総合計画の施策に対する取り組み

令和７年度に各課・各施設が実施した事業について、総合計画及び教育大綱の主要施策の方向ごとに整理し一覧にしました。複数の施策に該当する事業は、もっとも該当すると思われる施策に整理しました。

(1) 学校教育

①　教育内容や環境の充実（７８事業）

主要施策の方向		
●キャリア教育、職場体験学習を継続的に行い児童生徒の社会性の育成を図ります。 ●小学校外国語の教科化に対応するために、外国語指導助手の派遣や小学校英語専科非常勤講師を配置し、教育体制の充実を進めます。 ●生徒指導対応非常勤職員の配置を行い、教育環境の充実を図ります。 ●不測の事態に伴う学校休業を想定した、学びの保障について対策を進めます。		
事業内容	担当課等	庶務課
１教育委員会運営事業	２教育委員会点検評価事業	
３庶務課事務管理事業	４学校基本調査事業	
５遠距離通学児童通学費補助事業	６私立高等学校等授業料等補助事業	
７まなびさぽーと資金支給事業	８まなびさぽーと基金積立事業	
９まなびさぽーと資金支給審査会運営事業	10 学校等情報配信事業	
11 教材整備事業（小学校）	12 図書整備事業（小学校）	
13 小学校要保護準要保護児童援助事業	14 小学校特別支援教育就学奨励事業	
15 教材整備事業（中学校）	16 図書整備事業（中学校）	
17 中学校要保護準要保護生徒援助事業	18 中学校特別支援教育就学奨励事業	
事業内容	担当課等	学校教育課
１学校教育課事務管理事業	２小中学校副読本等充実事業	
３小中学校指導用資料充実事業	４小中学校教科書改訂対応事業	
５小中学校文化部運動部代表派遣事業	６音楽会実施事業	
７生き方発見チャレンジ活動事業	８指導法改善事業	
９新川和太鼓クラブ充実事業（新川小学校）	10 中央小いきいきふれあい活動事業（中央小学校）	
11 地域の伝統と文化を引き継ぐクラブ活動事業（大浜小学校）	12 地域と連携した藤井達吉の学習と環境美化事業（棚尾小学校）	
13 日進ふれ愛生き生きランド事業（日進小学校）	14ＦＢＣ活動事業（鷲塚小学校）	
15 エコクラブによる油ヶ渕の水質調査活動事業（西端小学校）	16 地域とのふれあいを深める活動（陶芸・園芸）（新川中学校）	
17「敬と愛」を高める体験・交流活動事業（中央中学校）	18Society5.0 の社会へのキャリア教育事業（南中学校）	
19 地域の人とふれあい豊かな心を育む緑化活動事業（東中学校）	20 地域協働の学校づくり事業（西端中学校）	
21 学校教育力向上指定研究委託事業	22 療休等緊急対応代替教職員配置事業	
23 少人数指導授業推進事業	24 小学校外国語活動・外国語科事業	
25 学校図書館活動推進事業（司書職員）	26 中学校英語科事業	
27 中学校生徒指導対応充実事業	28 小中学校ハートフレンド派遣事業	
29 学校教育研究等受託事業	30 小学校みどりの学校実施事業	
31 中学校みどりの学校実施事業	32 小学校英語専科事業	

33 緊急時対応修学旅行支援事業	34 養護教諭非常勤講師配置事業
35 養護教諭支援員配置事業	36 小学校水泳指導推進事業
37 小学校災害賠償補償給付事業	38 新川小学校教材費配分事業
39 中央小学校教材費配分事業	40 大浜小学校教材費配分事業
41 棚尾小学校教材費配分事業	42 日進小学校教材費配分事業
43 鷲塚小学校教材費配分事業	44 西端小学校教材費配分事業
45 中学校災害賠償補償給付事業	46 新川中学校教材費配分事業
47 中央中学校教材費配分事業	48 南中学校教材費配分事業
49 東中学校教材費配分事業	50 西端中学校教材費配分事業
51 保健体育事務管理事業	52 小学生健康診断事業
53 小学校教職員健康診査事業	54 中学生健康診断事業
55 中学校教職員健康診査事業	56 小学校就学時健康診断事業
57 学校環境管理事業	58 日本スポーツ振興センター事業
59 学校部活動地域移行支援事業（運動部）	60 学校部活動地域移行支援事業（文化部）

② 特別な支援の必要な児童生徒への支援の充実（９事業）

主要施策の方向		
●スクールアシスタントを必要がある小学校に配置し、特別な支援が必要な児童に対する支援の充実を図ります。 ●日本語初期指導教室の開設や通訳のできるスクールアシスタントの配置をし、外国人児童生徒の支援を行います。 ●心の教室相談員の配置や、ハートフレンドの派遣、派遣型スクールカウンセラーの活用など、各機関が連携して不登校等の対策を進めます。		
事業内容	担当課等	学校教育課
1 教育相談事業	2 特別支援教育・通級教室実施事業	
3 小中学校心の教室相談事業	4 外国人児童生徒指導事業	
5 特別支援教育推進事業	6 スクールカウンセラー活用事業	
7 学校生活支援事業	8 小中学校ハートフレンド派遣事業	
9 日本語教育支援充実事業		

③ 教員研修の充実（４事業）

主要施策の方向		
●教育課題（いじめ対策、ＩＣＴ教育等）への対応のための教員研修を実施します。 ●教員の資質向上のために教員研修指導員を配置して研修の充実を図ります。		
事業内容	担当課等	学校教育課
１現職教育研修委託事業	２学校教職員研修事業	
３教職員研究指導委託事業	４教育研究室・教育論文募集事業	

④　学校施設の整備・充実（３１事業）

主要施策の方向	
●学校にＩＣＴ機器等を整備し、児童生徒の情報活用能力を育成するための学習環境の充実を図ります。 ●老朽化が進んだ学校施設について適切な維持管理と計画的な改修を行い、長寿命化を図るとともに安心安全かつ快適な教育環境の整備を行います。	
事業内容	担当課等　庶務課
１新川小学校管理費配分事業	２中央小学校管理費配分事業
３大浜小学校管理費配分事業	４棚尾小学校管理費配分事業
５日進小学校管理費配分事業	６鷲塚小学校管理費配分事業
７西端小学校管理費配分事業	８小学校施設維持管理事業
９小学校スクールヘルパー派遣事業	10 小学校管理用備品整備事業
11 小学校施設長寿命化事業	12 小学校管理費臨時事業（庶務課分）
13 図書室ＯＡ化事業	14 小学校教育用コンピュータ運営事業
15 小学校校内ＬＡＮ運営事業	16 小学校ＧＩＧＡスクール構想推進事業
17 新川中学校管理費配分事業	18 中央中学校管理費配分事業
19 南中学校管理費配分事業	20 東中学校管理費配分事業
21 西端中学校管理費配分事業	22 中学校施設維持管理事業
23 中学校スクールヘルパー派遣事業	24 中学校管理用備品整備事業
25 中学校施設長寿命化事業	26 中学校管理費臨時事業（庶務課分）
27 中学校教育用コンピュータ運営事業	28 中学校校内ＬＡＮ運営事業
29 中学校ＧＩＧＡスクール構想推進事業	
事業内容	担当課等　学校教育課
１小学校 ICT 支援員配置事業	２中学校 ICT 支援員配置事業

⑤　安全な給食の提供及び食育の推進（１４事業）

主要施策の方向	
●衛生教育の実施、食中毒・異物混入対策マニュアルの充実など食の安全に関する取り組みを進め、児童生徒に安全な給食を提供します。 ●「碧南人参の日」等の記念日に合わせて地元産の食材を使用し、児童生徒の食材への関心を高めることで地産地消の取り組みを推進します。	
事業内容	担当課等　庶務課（給食センター）
１学校給食事務管理事業	２学校給食費徴収事務業務委託事業
３施設維持管理事業	４器具維持管理事業
５器具整備事業	６給食センター運営審議会運営事業
７調理・洗浄器具等整備事業	８給食業務職員管理事業
９賄材料調達事業	10 食器具・食材料検査事業
11 給食残さ資源化事業	12 学校給食配送事業
13㈱ﾍｷﾅﾝｼﾃｨｶﾝﾊﾟﾆｰ委託事業	14 学校給食費臨時事業

(2) 生涯学習・スポーツ

① 地域と連携した生涯学習の推進（２２事業）

主要施策の方向	
●ＨＥＸＰＯ　ＳＴＡＦＦ、子ども会、青少年育成推進員など、生涯学習活動に関わる団体相互の連携を強化します。 ●家庭や地域の教育力向上を図るため、親子の共同体験や家庭教育に関する学習機会の提供に努めるとともに地域と連携した取り組みを推進します。	
事業内容	担当課等　生涯学習課
１社会教育事務管理事業	２社会教育委員会議運営事業
３子ども会活動推進事業	４碧南市青少年育成市民会議事業
５青少年育成推進員活動事業	６二十歳を祝う会実施事業
７プレイメイト活動事業	８青少年問題協議会運営事業
９ＨＥＸＰＯ　ＳＴＡＦＦ活動事業	10碧南市スカウト育成連絡協議会補助事業
11 碧南市女性団体連絡協議会補助事業	12 親子ふれあい活動推進事業
13 地域「おやじの会」活動事業	14ＰＴＡ活動事業
15 放課後子ども教室推進事業	16 新川公民館運営審議会運営事業
17 中部公民館運営審議会運営事業	18 大浜公民館運営審議会運営事業
19 棚尾公民館運営審議会運営事業	20 日進公民館運営審議会運営事業
21 鷲塚公民館運営審議会運営事業	22 西端公民館運営審議会運営事業

② 生涯学習機会の拡充（１０事業）

主要施策の方向	
●多様化するニーズに応じた、魅力ある講座を開催します。 ●各種講座の終了後、受講者が新たな団体として活動を継続できるよう支援します。 ●文化祭事業を始め、文化会館ホールなどを利用して成果を発表する場を提供します。	
事業内容	担当課等　生涯学習課
１文化祭実施事業	２ＯＤＯＲＯＭＡＩ実施事業
３講座・講演会等開催事業	４新川公民館自主文化事業
５中部公民館自主文化事業	６大浜公民館自主文化事業
７棚尾公民館自主文化事業	８日進公民館自主文化事業
９鷲塚公民館自主文化事業	10 西端公民館自主文化事業

③ スポーツの推進体制の強化（２１事業）

主要施策の方向	
●スポーツ協会を始めとする関連団体の支援に努めるとともに、学校体育や企業、スポーツチームを含む各団体間の連携を強化し、スポーツの裾野拡大を図ります。 ●指導者の育成と資質向上により、安定的かつ継続的にスポーツができる環境の整備を行います。	
事業内容	担当課等　スポーツ課
１学校体育事務管理事業	２学校体育行事実施事業
３社会体育事務管理事業	４スポーツ選手強化委託事業
５スポーツ推進審議会運営事業	６スポーツ推進委員会運営事業
７碧南市レクリエーション協会補助事業	８碧南市スポーツ協会補助事業

９碧南市スポーツ少年団補助事業	10へきなん総合型スポーツクラブ補助事業
11 地域スポーツ推進事業	12 スポーツ指導者養成事業
13 スポーツ推進計画推進事業	14 万博メモリアル駅伝出場委託事業
15 スラックライン全国大会実施補助事業	16ＪＦＡこころのプロジェクト「夢の教室」実施事業
17 中学校部活動支援事業	18 スケートボード大会実施補助事業
19 少年スポーツ海外交流補助事業	20 アジア競技大会推進事業
21 臨海体育館事務管理事業	

④　スポーツに触れる機会の拡充（１２事業）

主要施策の方向		
●スポーツ教室や手軽な健康づくり講座の開催など、市民がスポーツに触れる機会を提供することにより、健康寿命の延伸に努めます。 ●年齢や体力さらには障害の有無に応じ、生涯にわたりスポーツを楽しめる環境の整備に努めます。 ●ニュースポーツ・若者向けスポーツを始めとした魅力あるスポーツ事業を実施することにより、スポーツの推進と地域の活性化をめざします。 ●スポーツ施設の魅力を積極的にＰＲし、利用促進をめざします。		
事業内容	担当課等	スポーツ課
１各種レクリエーション・スポーツ大会実施事業	２市民駅伝大会委託事業	
３へきなんマラソン実施事業	４市民スキー大会実施事業	
５西三河大会実施事業	６市民スポーツ大会実施事業	
７スポーツ教室開設事業	８学校体育施設開放事業	
９碧南市新体操発表会実施事業	10 大型ヨット体験乗船事業	
11 全国女子軟式野球選抜交流大会実施事業	12 碧南緑地ビーチスポーツ推進事業	

⑤　生涯学習・スポーツ施設の維持管理・整備（２２事業）

主要施策の方向		
●生涯学習関連施設やスポーツ施設の計画的な維持・管理を行うとともに、利用者の安全はもとより、利便性の高い施設・設備となるように整備・改修を進めます。 ●碧南緑地におけるスポーツ施設の整備については、アジア・アジアパラ競技大会後の利用を見据えつつ、費用面を含めあらゆる観点から調査・研究を進めます。		
事業内容	担当課等	生涯学習課
１文化振興基金積立事業	２新川公民館事務管理事業	
３中部公民館事務管理事業	４大浜公民館事務管理事業	
５棚尾公民館事務管理事業	６日進公民館事務管理事業	
７鷲塚公民館事務管理事業	８西端公民館事務管理事業	
９社会教育公民館施設維持管理事業	10 中部公民館臨時事業	
11 棚尾公民館施設維持管理事業	12 棚尾公民館臨時事業	
13 日進公民館臨時事業	14 文化会館・中央公民館事務管理事業	
15 文化会館・中央公民館施設維持管理事業		
事業内容	担当課等	スポーツ課
１社会体育施設維持管理事業	２体育施設整備事業	
３スポーツ振興基金積立事業	４勤労者体育センター維持管理事業	
５臨海体育館施設維持管理事業	６臨海体育館器具維持管理事業	

７臨海体育館費臨時事業	

(3) 芸術・文化

① 自主運営事業の充実（１４事業）

主要施策の方向		
●各施設の特性を生かした魅力ある事業を行うことで、まちの芸術文化環境を個性あるものにし、若い世代が新しい文化を創造しやすい地盤を育てます。 ●地域の歴史や伝統文化の調査研究を進め、積極的に文化財指定を行い、貴重な文化財の継承・保存を推進し、潜在的な文化資源を掘り起こすとともに、公開などの活用を図ります。 ●各施設が地域文化活動の拠点になるよう、市民同士の交流を深める事業やボランティア活動を支援する事業などを展開します。 ●自由な発想の事業を行うため、施設の枠にとらわれず施設間連携を深め、より充実した企画を実施します。		
事業内容	担当課等	生涯学習課（市民図書館）
１図書館協議会運営事業	２図書館用図書整備事業	
３図書館利用促進事業	４ボランティア活動推進事業	
５南部分館運営事業	６中部分館運営事業	
事業内容	担当課等	生涯学習課（無我苑）
１無我苑運営事業		
事業内容	担当課等	海浜水族館
１水族館協議会運営事業		
事業内容	担当課等	藤井達吉現代美術館
１美術館事務管理事業	２美術館協議会運営事業	
３文化財保護審議会運営事業	４市史資料調査事業	
５文化財調査事業	６指定文化財保存事業	

② 教育普及の充実（２事業）

主要施策の方向		
●学校や園と連携した事業を積極的に行うことにより、子どもが芸術文化に興味を持つきっかけを作り、地域の歴史や自然環境の大切さを伝えることで、将来の地域文化の担い手の育成を図ります。 ●何度訪れても魅力を感じさせる施設作りのために、企画や展示コーナー等を刷新し、得た知識や教養が市民や地域に活用されることをめざします。		
事業内容	担当課等	藤井達吉現代美術館
１美術品運営事業	２彫刻維持管理事業	

③ 情報発信の強化（２事業）

主要施策の方向		
●各施設はホームページやＳＮＳを利用し、本市ならではの情報を公開し、施設の魅力や地域文化のイメージを高めるよう情報発信をするとともに、市民の意見を収集し、施設の運営に反映します。		
事業内容	担当課等	生涯学習課（市民図書館）
１図書館利用促進理事業		
事業内容	担当課等	生涯学習課（無我苑）
１無我苑運営事業		

④ 施設の整備（１５事業）

主要施策の方向		
●施設の計画的な改修により安全性を高め、市民が安心して利用できるよう整備を進めます。 ●観光資源として活用するため、必要に応じて民間とも連携しながら、施設・サービスの向上を図ります。		
事業内容	担当課等	生涯学習課（芸術文化ホール）
１指定管理者審査委員会運営事業	２芸術文化ホール費臨時事業	
事業内容	担当課等	生涯学習課（市民図書館）
１図書館施設維持管理事業	２図書館コンピュータシステム運営事業	
３市民図書館費臨時事業	４中部分館施設管理事業	
５中部分館臨時事業		
事業内容	担当課等	生涯学習課（無我苑）
１無我苑維持管理事業	２無我苑費臨時事業	
事業内容	担当課等	海浜水族館
１施設維持管理事業	２機器維持管理事業	
３ビオトープ維持管理事業	４水族館費臨時事業	
事業内容	担当課等	藤井達吉現代美術館
１美術館施設管理事業	２大浜陣屋広場・旧大浜警察署維持管理事業	

⑤ 施設の特色を活かした運営（１２事業）

主要施策の方向		
●碧南市芸術文化ホールは、優れた芸術文化にふれることができる機会を提供するとともに、市民による自主的な芸術文化活動が地域に根付くための支援を行います。 ●碧南市藤井達吉現代美術館は、多世代を対象とした美術普及活動を展開し、藤井達吉など本市に縁のある人物や地域の歴史の調査・研究を進め、啓発活動を行います。 ●哲学たいけん村無我苑は、哲学・茶道・芸術・文化などを通して心を豊かにする事業を展開します。 ●碧南市民図書館は、外国人を含めたあらゆる世代のニーズに応え、多種多様な資料を収集提供し、市民が自主的に学べるよう読書活動の推進を図ります。 ●碧南海浜水族館は、特別展やビオトープなどでの自然観察会等を通して、命の大切さを学び、絶滅危惧種や自然環境の保全に必要な能力の育成・支援を図ります。		
事業内容	担当課等	生涯学習課（芸術文化ホール）
１芸術文化ホール事務管理事業	２芸術文化ホール指定管理事業	

事業内容	担当課等	生涯学習課（市民図書館）
１図書館用図書整備事業	２図書館利用促進事業	
事業内容	担当課等	生涯学習課（無我苑）
１無我苑運営事業		
事業内容	担当課等	海浜水族館
１水族館展示管理事業	２校外学習実施事業	
３博物館教育普及活動事業	４日本産希少淡水魚保護事業	
５特別展開催事業		
事業内容	担当課等	藤井達吉現代美術館
１企画展開催事業	２歴史系企画展開催事業	

令和８年度（令和７年度対象）
碧南市教育委員会　点検評価報告書

発行・編集　碧南市教育委員会
〒447－8601　碧南市松本町２８番地
電　話　０５６６－９５－９９１７
ＦＡＸ　０５６６－４１－７２８１
Ｅ-mail　kshomuka@city.hekinan.lg.jp